

第2章

各教科等における 保健教育の実際

第2章

各教科等における 保健教育の実際

第1節 保健体育（科目保健）

1. 第1学年（1）現代社会と健康 ア健康の考え方「健康の考え方と成り立ち」

1. 単元名 健康の考え方

2. 単元の目標

- ・健康の考え方について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができる。
(関心・意欲・態度)
- ・健康の考え方について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表すことができる。
(思考・判断)
- ・健康の考え方について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解することができる。
(知識・理解)

3. 単元について

「ア 健康の考え方」については、学習指導要領解説において、(ア) 国民の健康水準と疾病構造の変化、(イ) 健康の考え方と成り立ち、(ウ) 健康に関する意志決定や行動選択、(エ) 健康に関する環境づくりを取り扱う。本展開例においては4時間扱いの1時間目に「健康の考え方と成り立ち」を扱うことにした。これは、まず健康とは何か、健康の成立要因は何かについての理解を踏まえた上で、「国民の健康水準と疾病構造の変化」で取り上げる健康指標の統計的なデータなどで理解を深めることを意図している。

本時においては、青年期における高校生の日常生活の出来事や経験を通して実感した健康観に目を向け、自分自身の言葉や考え方で健康を考察させたい。そして、他者の健康観やWHO（世界保健機関）の健康定義と比較することにより、健康を多面的にとらえる必要があることを理解する。さらに、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が適切な生活行動を選択し、実践すること及び健康的な社会環境づくりが重要であることを理解させたい。

4. 単元計画

	第1時（本時）	第2時	第3時	第4時
	健康の考え方と成り立ち	国民の健康水準と疾病構造の変化	健康に関する意思決定や行動選択	健康に関する環境づくり
主な学習内容・学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○健康の考え方（概念）は、個人によって多様な考え方があること。 ○健康の考え方には、「生活の質」や「生きがい」を重視するものがあること。 ○健康の成立には主体要因と環境要因が互いに影響し合っていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○科学技術の発達や社会の発展に伴って健康水準が向上してきたこと。 ○科学技術の発達や社会の発展に伴って疾病構造が変化したこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康を保持増進するには、適切な意志決定や行動選択が必要であること。 ○それらには個人の知識、価値観、心理状態、及び人間関係などを含む社会環境が関連していること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ヘルスプロモーションの考え方に基づき、健康を保持増進するには、環境づくりが重要であること。 ○健康な社会には、一人一人が主体的に環境づくりにかかわることが必要であること。
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康とは何かについてイラストを描き、それに基づき話し合う。 2. 自分の健康の考え方の特徴を分析する。 3. 健康の成り立たせるために必要な主体要因と環境要因についての具体例を挙げ、分析する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国における健康水準の向上について、各種の健康指標を整理する。 2. 健康水準向上の背景について話し合う。 3. 疾病構造の変化し、生活習慣病が増加していることや心の健康など、新たな健康課題が増加していることを知る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康を保持増進する際の意志決定や行動選択に関連している要因を挙げる。 2. 健康を保持増進する上で、適切な意志決定や行動選択を行う過程について、分類、整理し、発表する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康を保持増進するために必要な環境づくりにどのようなものがあるかを話し合う。 2. それぞれがどのように健康に関する環境づくりにかかわっていけるかを考え、整理し、記述する。

5. 展開例 (1/4)

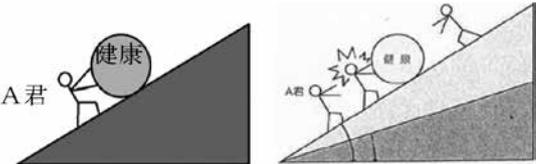
(1) 内容：健康の考え方と成り立ち

(2) 本時の目標

- ・健康の考え方や成り立ちについて、話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとすることができる。 (関心・意欲・態度)
- ・健康の成り立ちには、主体的要因や環境要因が相互に関連していること、具体例を整理するなどして、説明することができる。 (思考・判断)

(3) 展開 ：ねらい ：学習内容 ：発問・指示など

時間	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 3分	1. 「保健学習」を学ぶ意義について確認し、本時の学習内容についての見通しをもつ。	○「健康」は私たちにとって身近な話題である。「健康」とは何かを問うことで、健康の価値について理解を深める。
展開 ① 22分	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">・「健康」とは何か、「健康」の成り立ちとその要因について考えてみよう</p> <p style="background-color: #00a0e3; color: white; padding: 5px;">健康の考え方には、個人によって多様な考え方があること。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">あなたのイメージする「健康」について、イラストを描いてみよう。</p> <p>2. 現在の自分がイメージする「健康」について、イラストを描く。(ワークシート)</p> <p>【活動】</p> <p>①自分のイメージする健康のイラストを描く。</p> <p>②描いたイラストについてグループで話し合う。</p> <p>③各グループの代表者が、イラストを黒板に描き、イラストについて説明をする。</p> <p>3. 先輩の描いたイラスト例から、健康の多様な考え方について関心をもつ。</p> <p>図1 生徒の描いたイラスト例 資料1</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div>	  <p>○先輩の描いたイラスト例(資料1)には、「調和」「バランス」「安定」「中心」「軸」「ここ」「からだ」「人間関係」などのイメージが描かれていることを紹介する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>生徒の描くイラストの多くは「身体的健康観」をイメージしたイラストが描かれることが多い。先輩の描いたイラストを例示するなどして、グループ内で活発な意見交換させるとよいでしょう</p> </div> <p>◆関心・意欲・態度 健康の考え方について、話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。(観察)</p>

	<p>あなたの考える「健康」にはどんな特徴があるだろう。</p> <p>4. WHO（世界保健機関）の「健康の定義」について確認した上で、自分の描いたイラストを分析する。 (WHOの「健康の定義」) 「健康とは身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態であって、単に病弱ではないという状態にとどまるものでない。」</p>	<p>○自分の描いたイラストや考え方について、WHOの「健康の定義」と比較しながら、「身体的」「精神的」「社会的」な健康観について概念を整理する。</p> 
<p style="writing-mode: vertical-rl;">展開② 15分</p>	<p style="text-align: center;">健康の成立には、どのような要因が関連しているのか考えよう。</p> <p>「健康」の成り立ちには、主体的要因や環境要因が相互に関連していること。</p> <p>坂道をA君が「健康」という玉を楽に持ち上げていくためには、どのような方法が考えられますか？</p>  <p style="text-align: center;">〈生徒のイラストの例〉</p> <p>5. 自分の考えをワークシートに記入する。 〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・坂道の角度をなだらかにする。 ・誰かに援助してもらう。 ・A君自身がパワーアップする。 <p>6. グループで話し合う。</p> <p>7. 発表する。 〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康を高めるためには、個人の努力だけではなく、個人を取り巻く社会環境も整備することが大事だと思う。 	 <p>○自分の考えをワークシートへ描画するなどして、グループ内で活発な意見交換ができるよう、伝える。</p> <p>「健康」は個人の力だけで成立するものではなく、「環境要因」（社会環境）も影響し合いながら成立していることを、具体例を挙げながら整理する。</p> <p>◆思考・判断 健康の成り立ちには、主体的要因や環境要因が相互に関連していることについて、整理するなどして、説明している。(ワークシート)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">まとめ 10分</p>	<p>今あなたがイメージする「健康」について、イラストを描いてみよう。</p> <p>8. 今自分がイメージする「健康」について、イラストを描く。 (ワークシート)</p> <p>9. 本時の授業を振り返り、感想を記入する。</p>	<p>○これまで学習してきたことを踏まえ、多様な考え方ができることを確認する。</p> <p>○最初に書いたイラストと最後に書いたイラストを比較しながら感想を記入する。</p>

(4) 資料等

(ワークシート)

年 組 名前 _____

『健康の考え方と成り立ち』

発問1 あなたのイメージする「健康」について、イラストに描いてみよう。

発問2 あなたの描いた「健康」には、どんな特徴がありましたか。

特徴

発問3 坂道をA君が「健康」という玉を楽に持ち上げていくためには、どのような方法が考えられますか？(図へ記入してもよい)



特徴

発問4 今あなたがイメージする「健康」について、イラストに描いてみよう。

感想 (授業前と後での健康に対する考え方の違い、授業の感想等を記入してください)

6. 他の時間との関連

科目保健における「ア 健康の考え方」では(ウ)健康に関する意志決定や行動選択、(エ)健康に関する環境づくりの内容は、「保健」の内容全体にかかわるものである。

本単元では、概念的な理解を促すこととし、特に関連の深い「イ 健康の保持増進と疾病の予防」などにおいて具体的な内容をもとに理解を深めるようにする。

2. 第1学年 (1)現代社会と健康 イ健康の保持増進と疾病の予防「がんとその予防」

1. 単元名 健康の保持増進と疾病の予防

2. 単元の目標

- ・健康の保持増進と疾病の予防について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。 (関心・意欲・態度)
- ・健康の保持増進と疾病の予防について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを説明できるようにする。 (思考・判断)
- ・健康の保持増進と疾病の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解できるようにする。 (知識・理解)

3. 単元について

本単元では、生活習慣病を予防し、健康を保持増進するためには、適切な食事、運動、休養及び睡眠など調和のとれた健康的な生活を実践することが必要であることを理解できるようにする。

その際、がん（悪性新生物）、虚血性心疾患、脂質異常症、歯周病などを適宜取り上げ、それらは日常の生活行動と深い関係があることを理解できるようにする。

本時では、日本人の死因の第一位であるがんを取り上げ、がんを引き起こすと考えられる要因には、様々なものがあることを理解するとともに、健康的な生活習慣とがんり患との関係、がんの進行度と生存率との関係を踏まえた上で、自らが今後取るべき行動について考え、判断し、表現できるようにしたい。

4. 単元計画

	第1時	第2時（本時）	第3時
	生活習慣病とその予防	がんとその予防	虚血性心疾患、脂質異常症、歯周病などの生活習慣病とその予防
主な学習内容・学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○生活習慣病が、日常の生活行動と深い関係があること。 ○生活習慣病の予防には、一次予防と二次予防が必要なこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○がんを引き起こす要因には、生活習慣、ウイルス、細菌など、様々なものがあること。 ○がんを予防する上で、健康な生活習慣の維持と早期発見・早期治療が必要なこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○虚血性心疾患、脂質異常症、歯周病などの生活習慣病には、食事、運動、休養及び睡眠などの日常生活が関係していること。 ○生活習慣病を予防し、健康を保持増進するには、適切な食事、運動、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を実践することが必要であること。
	<ol style="list-style-type: none"> 単元の流れと学習内容の確認。 生活習慣病にはどのようなものがあり、その発病や進行と日常の生活行動との関係について整理する。 	<ol style="list-style-type: none"> 前時の復習とがんは身近な病気であることを確認する。 既知のがんの種類をあげ、り患数の多いがんを知る。 がんの発生機序について、資料をもとに知る。 がんを引き起こすと考えられる要因を話し合い、発表し、整理する。 健康な生活習慣とがんとの関係、胃がんの病期5年生存率のグラフを読み取って分析し、説明する。 グラフを読み取り分析したことを踏まえて、各自が今後取るべき行動について、まとめる 	<ol style="list-style-type: none"> 前時の復習。 虚血性心疾患、脂質異常症、歯周病とはどんな疾病であるかを整理する。 虚血性心疾患、脂質異常症、歯周病の原因を整理し、それらの予防のために、調和のとれた健康的な生活を実践する上で、どのような課題があるかを考え、整理する。

5. 展開例 (2/3)

(1) がんとその予防

(2) 本時の目標

・がんを引き起こすと考えられる要因には、生活習慣、ウイルス・細菌など、様々なものがあることを理解することができるようにする。 (知識・理解)

・健康的な生活習慣とがんとの関係、がんの病期と5年生存率とのグラフを読み取って分析し、それらを踏まえて、自らが今後取るべき行動を判断し、説明することができるようにする。

(思考・判断)

(3) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

時間	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 10分	<p>1. 前時の復習とがんが身近な病気であることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の種類とその予防について確認する。 がんは、昭和56年から日本人の死因の第1位である。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">・がんは日本人の死因の第1位だけど、例えばこのクラスでいうならば、何人の人が一生のうちにがんになり患する可能性があることになるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の日本では、約二人に一人が一生のうちにがんになり患する可能性(確率)がある。また三人に一人ががんで亡くなっている。このクラスでいうならば、約二十人(四十人クラスの場合)がり患する可能性がある。 	<p>○前の時間に配付済みの統計表などで確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>年齢が高くなるほどがんになる確率が高くなるのが分かっています。日本では年齢の高い人が増えていることにより、がんになり患する可能性が高くなってきていることを補足します。</p> </div> 
展開 35分	<p>2. がんの現状、がんの発生機序(がんとは何か)、がんの要因について理解する。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">・知っているがんをできるだけたくさんあげてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 知っているがんの名称を、できるだけたくさんあげる。 <p>〈予想される回答〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 胃がん ・肺がん ・子宮がん 子宮頸がん ・大腸がん ・乳がん すい臓がん ・喉頭がん <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">・日本でり患数が多いと思われる上位五つのがん(部位)はどれだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> り患数が多いと思われるがん(部位)について、指名により答える。 <p>【板書】 日本人に多いがんの種類(部位, 1位から順に)</p> <p>男女: 胃, 大腸, 肺, 乳房, 前立腺 男: 胃, 肺, 大腸, 前立腺, 肝臓 女: 乳房, 大腸, 胃, 肺, 子宮</p> <p>(2012年国立がん研究センター 最新がん統計より)</p>	<p>○A3の用紙を各グループに配り、知っているがんについてできるだけたくさん挙げ、書き出すよう指示する。</p> <p>○がんの名称をグループごとに一つずつ順に発表し、クラス内で挙がったすべてを板書する。</p> <p>○発表に併せて板書してあるがんを丸で囲む。</p> <p>○日本のり患数上位五つのがんについて、男女合わせたもの、男女別の順に板書する。</p>

・がんの発生機序（がんとは何か）を理解する。

○がんの発生機序（がんとは何か）について、資料1を読み、解説する。

資料1

がんを引き起こすと考えられる要因を理解しよう。

がんを引き起こすと考えられる要因には、生活習慣、ウイルス・細菌など、様々なものがあること。

・あなたが知っているがんを引き起こすと考えられる要因を挙げてみよう。

・各自が知っているがんを引き起こすと考えられる要因について、ワークシートに記入する。

・ワークシートに記入した内容を発表する。

〈予想される回答〉

・喫煙 ・飲酒 ・運動不足 ・紫外線

【板書】 がんを引き起こすと考えられる要因

生活習慣

・喫煙・飲酒・食生活・運動不足・肥満

ウイルス・細菌

・肝炎ウイルス

・HPV（ヒトパピローマウイルス）

・（ヘリコバクター）ピロリ菌

環境

紫外線、放射線、アスベスト

その他

・がんを引き起こすと考えられる要因には、生活習慣のほかにウイルス・細菌などもあることを理解する。

○資料1の最後にある「このコピーミスを多くしてしまう要因ががんの原因と考えられている」の一文を読み直し、生徒が知っているがんを引き起こすと考えられている要因について、書き出すよう指示する。

○生徒がワークシートに記入した後、発表内容を板書する。

○資料2を配付し、生徒の発表したものに加えて要因を板書し、生活習慣、ウイルス・細菌、環境、その他に分類して整理する。

資料2

◆がんを引き起こす要因には、生活習慣、ウイルス・細菌など、様々なものがあることを理解している。（知識・理解）

小児がんは、生活習慣、ウイルス・細菌などとは関係なく、まだ原因が分かっていないことにも触れ、誤解が生じないようにします。



3 がんを予防するには、どのようなことが必要なかを考える。

がんを予防する上で、必要なことを分析し、今後取るべき行動を考えよう。

・がんを予防する上で、健康な生活習慣の維持と早期発見・早期治療が必要なこと。

	<p>・資料3のグラフから読み取れることを書き出そう。</p> <p>・資料3『五つの健康な生活習慣とがんり患リスク』のグラフを読み取り、健康な生活習慣とがんり患リスクの関係を分析する。 〈予想される回答〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践している健康な生活習慣が多いほど、がんり患のリスクが低くなる。 ・五つの健康な生活習慣を実践した場合、0か1しか実践していない場合に比べて、がんり患リスクは0.6倍程度に低くなる。 ・ワークシートに記入した内容を、グループで交流する。その後、グループごとに発表する。 <p>・資料4のグラフから読み取れることを書き出そう。</p> <p>・資料4『胃がんの病期5年生存率』のグラフを読み取り、がんの早期発見・早期治療の有効性について分析する。 〈予想される回答〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん細胞が発見されるのが早ければ早いほど5年生存率が高い。 ・I期の間に治療すれば、5年生存率は100%に近い。 ・IV期まで進行すると、5年生存率がとても低くなる。 ・ワークシートに記入した内容を、グループで交流する。その後、グループごとに発表する。 <p>・関係機関から示されているがんを予防するための12か条について確認する。</p>	<p>○資料3を配付し、グラフの中の数字は、実践している生活習慣の数が0か1の人のがんり患を1とした時に、実践している生活習慣が2, 3, 4, 5ある人がどれくらいの比でがんり患するリスクがあるかを計算したものであることを補足する。 資料3</p> <p>○資料4を配付し、がんの病期とは、がんの進行の程度を示すものであり、胃がんの場合、I期はがん細胞が胃の粘膜内にとどまっている程度、II期はがん細胞が胃壁内にとどまっている程度、III期はがんが胃の周辺のリンパ節や隣り合う臓器に侵入している程度、IV期はがん細胞が胃より遠い臓器やリンパ節に侵入している程度であることと、5年生存率とは、診断から5年経過後に生存している患者の割合を示すものであることを補足する。 資料4</p> <p>○資料5を配付する。 資料5</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">まとめ5分</p>	<p>4. 本時の学習のまとめをする。</p> <p>・これまでの資料を踏まえて、あなたが今後がんを予防する上で取るべき行動をまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自でこれまでの資料を参考にしながら、ワークシートに記入する。 ・記入したワークシートを提出する。 	<p>○主に資料2から5を参考にしながらワークシートにまとめるように指示する。</p> <p>◆がんを予防する上で、健康な生活習慣の維持と早期発見・早期治療が必要なことを踏まえて、自ら取るべき適切な行動を判断し、選択している。(思考・判断)</p> <p>○回収したワークシートの(2), (3), (4)について「思考・判断」の観点で評価する。</p>

(4) 資料等

資料 1

がんとその予防

1年 組 番 氏名

- (1) あなたが知っているがんを引き起こすと考えられる要因を挙げてみよう。

- (2) 資料 3 のグラフから読み取れることを書き出そう。

- (3) 資料 4 のグラフから読み取れることを書き出そう。

- (4) これまでの資料を踏まえて、がんを予防する上で、あなたが今後取るべき行動をまとめよう。

「がん」とは

私たちの体には、約 60 兆個の細胞がある。それぞれの細胞には、一生のうちに何度も分裂をくり返し、全体の調和をとりながら新陳代謝を行う。細胞それぞれの中には、新しい細胞をつくるための遺伝子が入っている。

細胞分裂する際、この遺伝子は、正確にコピーされて、新しい細胞が生まれる。しかし、その途中で遺伝子のコピーミスが起きて異常な細胞が生まれてしまう。これが突然変異であり、細胞ががん化する第一段階である。ただし、この突然変異は誰にでも毎日起こっていることであり、異常な細胞はすぐに死んだり、免疫のはたらきによって除去されたりする。

しかし、まれに生き残る異常細胞が現れる。コピーミスが多くなってしまったりもする。(高齢になると当然その数が多くなる。

寿命が延びたことによってがんが増えたのはこのことから。)

そして、それがいくつもたまるとがん細胞となり、それからは秩序なく勝手に増え続けてしまう。

このコピーミスを多くしてしまう要因ががんの原因と考えられている。

資料2 ◆現在までに分かっている生活習慣とがんとの関連

	肺がん	肝がん	胃がん	大腸がん			乳がん	子宮頸がん
				結腸がん	直腸がん			
喫煙	▲ 確実	▲ ほぼ確実	▲ 確実	▲ 可能性あり	●	▲ 可能性あり	▲ 可能性あり	▲ 確実
飲酒	●	▲ 確実	●	▲ 確実			●	●
肥満	●	▲ ほぼ確実	●	▲ ほぼ確実			● (妊娠中) ▲ 確実 (閉経後)	●
運動	●	●	●	▼ ほぼ確実	●	●	▼ 可能性あり	●
感染症	(肺結核) ▲ 可能性あり	(肝炎ウイルス) ▲ 確実	(ヒトコウ菌) ▲ 確実				(HPV 16, 18) ▲ 確実	(HPV 16, 18, 31, 33, 35, 39, 45) ▲ 確実

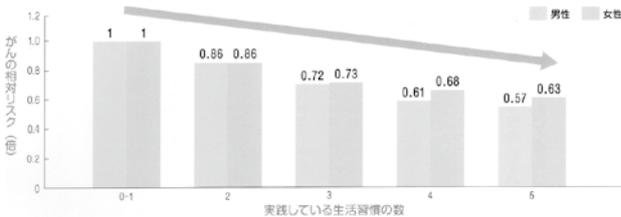
一部省略

	食品		飲料	
	野菜	果物	大豆	魚
野菜	●	●	▲ 可能性あり	●
果物	▼ 可能性あり	●	▲ 可能性あり	●
大豆	●	●	●	▼ 可能性あり
(保存肉)	▲ 可能性あり		●	●
魚	●	●	●	▼ 可能性あり
穀物	●	●	▲ 可能性あり	●
食塩	●	●	▲ ほぼ確実	●
緑茶	●	●	● (男) ▼ (女) 可能性あり	●
コーヒー	●	●	▼ ほぼ確実	▼ 可能性あり

(国立がんセンター「科学的根拠に基づく発がん性・がん予防効果の評価とがん予防ガイドライン提言に関する研究 2013年3月」より一部抜粋)
 ※国立がん研究センターの研究班が、がんにかかわる多くの研究論文を収集し、科学的な根拠としての信頼性を評価し、まとめた表である。
 ▲は、がんの発生の促進。 ▼は、がんの抑制効果を表す。
 ●は、「十分でない」の意。 2.3の不確実な研究があるだけで、更に研究の必要あり。

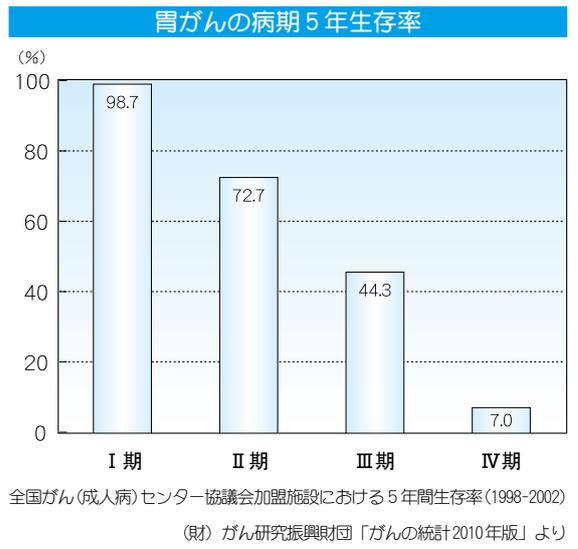
資料3

五つの健康な生活習慣（禁煙、節酒、減塩、適度な運動、適切な体重の維持）とがんり患リスク



出典：Sasazuki S. et al : Preventive Medicine. 54. 112-116, 2012
 実践している生活習慣の数が0か1の人のがんり患を1とした時の相対的なリスク

資料4



資料5

がんを防ぐための新12か条	
あなたのライフスタイルをチェック そして今日からチャレンジ	
第1条	たばこは吸わない
第2条	他人のたばこの煙をできるだけ避ける
第3条	お酒はほどほどに
第4条	バランスのとれた食生活を
第5条	塩辛い食品は控えめに
第6条	野菜や果物は豊富に
第7条	適度に運動
第8条	適切な体重維持
第9条	ウイルスや細菌の感染予防と治療
第10条	定期的ながん検診を
第11条	身体の異常に気がいたら、すぐに受診を
第12条	正しいがん情報でがんを知ることから

財団法人 がん研究振興財団発行の冊子より引用

3. 第1学年 (1)現代社会と健康 イ健康の保持増進と疾病の予防「エイズとその予防」

1. 単元名 感染症とその予防

2. 単元の目標

- ・感染症とその予防について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。 (関心・意欲・態度)
- ・感染症とその予防について、学習したことを、個人及び社会生活や事例などと比較したり、分析したり、評価したりなどして、筋道を立てて説明することができるようにする。 (思考・判断)
- ・感染症とその予防には、個人的及び社会的な対策を行う必要があることについて、理解したことを発言したり、記述したりすることができるようにする。 (知識・理解)

3. 単元について

我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする必要がある。そこで、本単元では、感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られることを理解できるようにする。その際、交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、新たな病原体の出現、感染症に対する社会の意識の変化等によって、エイズ、結核などの新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることを理解できるようにする。さらに、これらの感染症の予防には、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であることを理解できるようにする。

4. 単元計画

	第1時	第2時	第3時	第4時(本時)
	現代の感染症	感染症の予防	性感染症とその予防	エイズとその予防
主な学習内容・学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症の発生や流行は、自然環境や社会環境の影響を受けるので、時代や地域によって違いが見られること。 ○新興感染症や再興感染症の発生や流行の背景には、自然環境や社会環境の変化がかかわっていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症予防の原則は、感染源対策、感染経路対策、感受性者対策であること。 ○感染症の予防には、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及などの社会的対策とともに、予防の原則に則した個人の取組が必要であること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○性感染症は感染しても自覚症状のないまま重症化したり、他人へ感染を広げたりしてしまう場合があること。 ○性感染症の予防や治療には、他の感染症と同様に適切な対応が必要であること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○我が国のエイズの発生動向を踏まえ、エイズへの意識や関心に課題があること。 ○エイズの予防に対する課題を踏まえた社会的対策と、それらを前提とした個人の取組が必要であること。
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知っている感染症について、以前から聞かれるものと最近聞かれるものに分類する。 2. 新興感染症が出現する理由と問題点について考え、話し合う。 3. 再興感染症が出現する理由と問題点について考え、話し合う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症を予防し流行を防ぐために必要な、感染源対策や感染経路対策について知る。 2. 自分の免疫の働きを高く維持するために必要な、感受性者対策について知る。 3. 感染症を予防し流行を防ぐための、社会的な対策と、予防原則に則した個人の取組について考え、話し合う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 性感染症の現状や感染の放置による症状の重症化について知る。 2. 性器クラミジア感染症が若年層で多くなっている理由について考え、話し合う。 3. 性感染症についても、他の感染症と同様に個人の取組や社会的対策が必要であることを知る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国のエイズの発生動向は、依然として予断を許さない状況にあることを知る。 2. エイズへの関心を高めるための社会的対策に加え、個人の取組が大切であることを知る。 3. 社会的対策で重要な HIV 抗体検査の課題について考え、話し合う。 4. グローバル化と関連するエイズの世界的動向について知る。

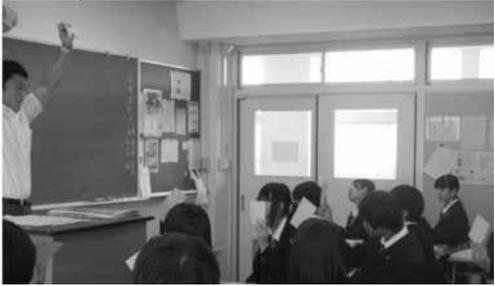
5. 展開例 (4/4)

(1) エイズとその予防

(2) 本時の目標

- ・エイズとその予防について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。(関心・意欲・態度)
- ・エイズとその予防には、社会的な対策を前提とした個人の取組が必要であることについて、理解したことを発言したり、記述したりすることができるようにする。(知識・理解)

(3) 展開 : ねらい 資料1 : 学習内容 : 発問・指示など

時間	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 8分	<p>1. 我が国のエイズの現状について知る。</p> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: right; background-color: #0070C0; color: white; padding: 2px;">資料1</p> <p>このグラフは、ある病気の患者数の変化を示したのですが、その病気とは何でしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・タイトルを伏せたグラフが「主要先進国のエイズ患者報告数」の経年変化を示していることを知る。また、各国のグラフの傾向を比較し気付いたことを発表する。 <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>最近、エイズに関する情報を見たり聞いたことが「ある」という人は緑色のカード、「ない」という人は黄色のカードを上げてください。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国のエイズの発生動向は注視すべき状況にあるにもかかわらず、日常的にエイズに関する情報に触れる機会が少なくなっていることを知る。 <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">  </div> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>これは、我が国のエイズ患者報告数の変化を地域別に示したグラフです。自分たちの住む地域の状況を示したものはどれでしょう。</p> <p style="text-align: right; background-color: #0070C0; color: white; padding: 2px;">資料6-②参照</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・地域名を伏せたグラフから、自分達の住む地域におけるエイズ患者数の状況を予想する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習内容へ興味・関心をもたせる。 ○他の先進諸国のグラフとの比較から、我が国ではエイズ患者が増加傾向にあることを伝える。 ○緑色と黄色のカードについては、授業の開始時にそれぞれ1枚ずつ生徒へ配付しておく。 ○緑色のカード「ある」を上げた生徒には、情報の内容等について聞く。 ○カードの表示状況から、エイズに関する情報と接する機会が少なくなっていることを確認させる。 <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの地域のエイズ患者数の状況について知ることで、エイズを身近な問題としてとらえさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>我が国のエイズの動向について、生徒たちの生活圏である地域のデータを示すなどにより、エイズの予防は身近な課題であることを意識させることが大切です。</p> </div>



展開 35分	2. 本時のねらいを確認する。	○エイズとその予防について学習することの意義を伝える。
	STOP! AIDS エイズとその予防に対する課題と対策を考えよう!	
3. 中学校での学習内容を踏まえ、エイズの疾病概念について確認する。 HIV とエイズの違いについて、「分かる」という人は緑色のカード、「よく分からない」という人は黄色のカードを上げてください。 ・ HIV とエイズの違いについて確認する。 4. 我が国と世界の間で、エイズに対する意識や関心に違いがあることを知る。 HIV 感染を含むエイズの現状について、「心配だと感じますか」「あまり心配と感ぜない」という人は緑色のカード、「心配と感ぜる」という人は黄色のカードを上げてください。 ・ エイズの現状に対して「あまり心配と感ぜない」理由について考える。 UNAIDS (国連合同エイズ計画) が行ったエイズに対する意識調査の中に、「エイズは自分達の国の問題だと思いますか?」という項目がありますが、日本と世界のそれぞれで「はい」と回答した割合を予想してみましょう。 資料 2 ・ 我が国のエイズの発生動向を踏まえ、エイズへの意識や関心に課題があること。	○ HIV はウイルスの名称であり、感染によりエイズ発症の可能性が生じること。HIV 感染後の免疫機能低下により、指標となる疾患が発症した状態がエイズであることを伝える。 ○ それぞれのカードを上げた生徒数名から理由を聞く。 ○ 我が国のエイズの発生動向が予断を許さない状況にありながら、「あまり心配と感ぜない」と考える理由の一つとして、社会全体で意識や関心が低い現状があることを理解させる。 ○ UNAIDS (国連合同エイズ計画) の「THE BENCHMARK : JAPAN」(2010 年)の資料から、我が国は世界と比較した場合においてもエイズへの意識や関心が低い現状にあることを伝え、それがエイズ患者増加傾向の一要因であることを理解させる。 ○ エイズ啓発のポスターを例として、情報発信には、伝えるべき内容が具体的で分かりやすいこと、適切で必要な情報が盛り込まれていることなどが大切であることを伝える。 ○ ワークシート及び HIV 感染やエイズの現状に関する資料を配付する。 資料 5 , 資料 6	
5. エイズへの意識や関心を高めるための対策について考える。 自分の周囲や社会に不足しているエイズの情報进行分析し、意識や関心を高めるための効果的な情報発信対策を考えてみましょう。 ・ 中学校での学習内容や配付資料をもとに、ワークシートに自分の考えた情報発信のアイデアを記入する。		

- ・グループでの話し合い活動により、自分と周囲の考えの共通点や相違点に気付く。



- ワークシートへ自分のアイデアを記入した後、グループ（6名程度）で共有する。いくつかのグループの発表内容を聞くことで更に考えを深める。

机間指導をしながら配付資料の内容に触れ、社会に不足している情報やその伝え方の工夫についてヒントを与えましょう。また、どのような対象にどのような方法で情報を伝えていくかを考える活動を通じて、エイズに対する知識・理解を深めさせることが大切です。

- ・国や民間企業によるエイズ予防に関する啓発活動の代表的な取組について知る。

【国の取組】

「世界エイズデー」の趣旨や目的及び普及啓発活動

【民間の取組】

音楽業界を中心とする民間企業が主催するエイズ啓発イベント

・情報発信を例に、エイズの予防に対する課題を踏まえた社会的対策と、それらを前提とした個人の取組が必要であること。

- 6. 社会の対策として重要である HIV 抗体検査の課題について考える。

HIV 抗体検査については、CM 等で継続して情報発信されているにもかかわらず、検査件数はピーク時より減少し横ばい傾向にあります。その理由を考えてみましょう。

資料3

- ・地域の保健所の検査日時等が記載された資料を配付し、それをもとに、検査人数が伸び悩んでいる理由について考える。
- ・グループで意見を出し合い、ワークシートへ記入する。

◆関心・意欲・態度

課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。（観察）



- 高校生の描いたキャンペーンポスターの紹介や、高校生と年代が近い著名人が、趣旨に賛同して各種イベント等に参加していることなどに触れ、若い世代もエイズに対する意識や関心を高めることの大切さを伝える。
- 多くの民間企業の協力によりエイズ啓発の取組が行われていることに触れ、社会全体で意識や関心を高めることの大切さを伝える。
- 社会的対策に加え、個人の取組としてエイズに関する適切な情報収集が大切であることに触れる。

- HIV 抗体検査を呼びかけるポスターを掲示し、保健所では無料匿名で検査ができることを確認する。
- 確かな結果を得るための検査時期（ウィンドウ期間があること）や検査方法（即日及び通常検査）について伝える。
- 新規 HIV 感染者が増加傾向を示しているのに対して、検査人数は横ばいであることを伝える。

- ・ HIV 抗体検査の件数を増やすためには、継続的な情報発信に加えて検査を受けやすい体制づくりが必要であること。
- ・ 検査へ行くという個人の取組が、感染予防と拡大防止及び早期発見・早期治療につながること。

7. 本時の学習のまとめ。

資料 4

- ・ 本時の学習で新たに分かったことを「社会的な対策」と「個人の取組」というキーワードを用いてまとめる。

授業のまとめとして、本時の振り返りに加えて、「グローバル化の進む現代社会にあって、世界的なエイズの動向は我が国にとっても無関係な問題ではないこと」、「これからの社会を担っていく若い世代の意識や行動が、今後の我が国の未来だけでなく世界へ影響を与えていくこと」に触れ、引き続きエイズへの意識や関心をもつことの大切さを伝えましょう。



○「即日検査の実施日が少ない」「時間帯に制約がある」等、検査体制に課題があることに気付かせる。

○社会的対策としての検査体制の充実とともに、検査を受けに行く個人の取組が大切であることを伝える。

○現在、全世界で3千万人を超える人々が HIV に感染していること。エイズは、死亡数の面でマラリア、結核を抜く最大の感染症となっていることを伝える。

○本時の授業で「エイズについて新たに分かったこと」だけでなく「エイズに対する意識や考え方で変化したこと」についてワークシートに記入させる。

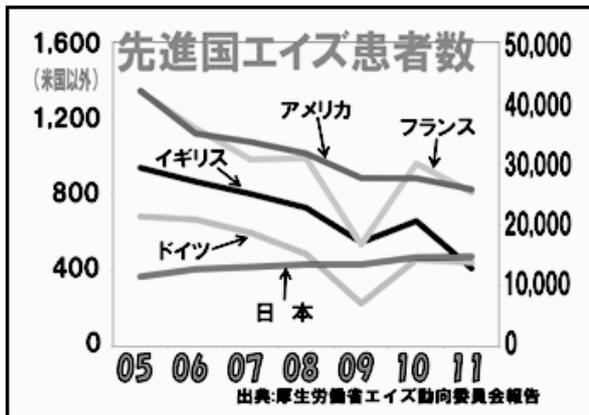
◆知識・理解

エイズとその予防には、社会的な対策を前提とした個人の取組が必要であることについて、理解したことを発言したり、書き出したりしている。

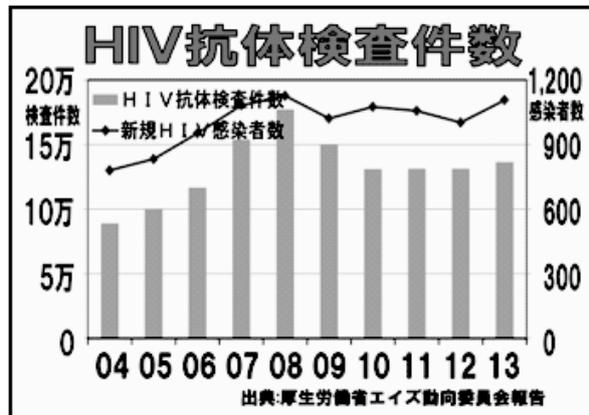
(ワークシートの記述)

(4) 資料等

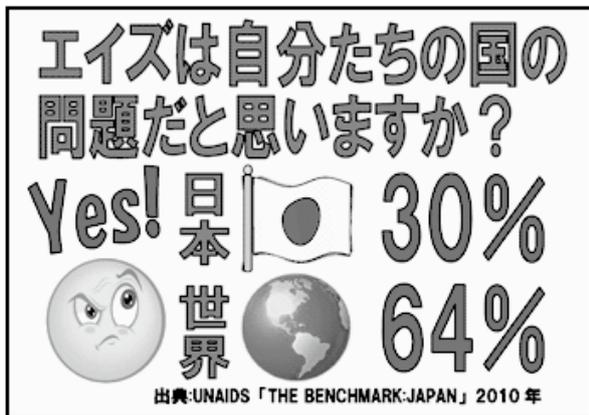
資料 1



資料 3



資料 2



資料 4



資料5

Stop! AIDS 「エイズとその予防」

番号 氏名 _____

1. エイズへの意識や関心を高めるには？

1 エイズの予防や感染の拡大防止のために、今もっとも伝えるべき情報は？

その情報をどの様な対象に対して、またどの様な方法によって発信したらよいか？

2 情報を伝える対象(年代や性別など)や方法を、できるだけ具体的に書こう！

2. HIV抗体検査の課題は何だろう？

3. 今日の授業で、「特に新しくわかったこと」、「意識や考え方で変化したこと」。

○特に新しくわかったこと。

○エイズに対する意識や考え方で変化したこと。
「誤解を受ける前の意識や考え方と比べて変化したこと」を書いてください。

資料6 エイズへの意識・関心を高めるには？

① 先進国エイズ患者数 (単位: 千人)

年	イギリス	アメリカ	フランス	日本
05	~1000	~1200	~1000	~100
06	~1000	~1200	~1000	~100
07	~1000	~1200	~1000	~100
08	~1000	~1200	~1000	~100
09	~1000	~1200	~1000	~100
10	~1000	~1200	~1000	~100
11	~1000	~1200	~1000	~100

② エイズ患者報告数の地域別推移 (単位: 千人)

③ 日本の新規 HIV 感染者 AIDS 患者

年	新規 HIV 感染者	AIDS 患者
04	385	1,121
07	418	1,469
10	469	1,516
13	484	1,106

④ H25年度 新規 HIV 感染者 年代別 (平成25年度速報値)

年代	割合
50歳以上	14%
40歳代	22%
30歳代	34%
20歳代	29%
10歳未満	1%

⑤ H25年度 新規 エイズ患者 経路別 (平成25年度速報値)

経路	割合
同性間性接触	57%
異性間性接触	23%
不明	17%
その他	2%

6. 他の時間との関連

科目「保健」では、「生涯を通じる健康」の「ア 生涯の各段階における健康」の「(ア) 思春期と健康」及び「(イ) 結婚生活と健康」において、関連して学習することが考えられる。また、「イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関」の「(ア) 我が国の保健・医療制度」及び「(イ) 地域の保健・医療機関の活用」において、HIV・エイズ治療への医療体制などについて取り上げることも考えられる。特別活動においては、人間としての在り方生き方に関する指導を重点的に行うことで、望ましい人間関係を形成するために必要な能力や態度、社会の一員としての自覚と責任ある態度などが養われることが期待される。そのような観点から、「感染者の就労にかかわる課題」など、HIV及びエイズに関する偏見や差別の発生を未然に防止し、感染者及び患者が尊厳をもって暮らせる社会づくりについて取り上げ、社会の一員として果たすべき役割について考えることも有効である。

4. 第1学年 (1)現代社会と健康 ウ精神の健康「ストレスへの対処」

1. 単元名 ストレスへの対処

2. 単元の目標

- ・ストレスへの対処について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。 (関心・意欲・態度)
- ・ストレスへの対処について、学習したことを、個人及び社会生活や事例と比較したり、分析したりしながら、筋道を立ててそれらを説明することができるようにする。 (思考・判断)
- ・精神の健康を保持増進するには、欲求やストレスに適切に対処することが重要であることについて理解することができるようにする。 (知識・理解)

3. 単元について

小学校では、心や体の調子がよいなどの健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因がかかわっていることを、中学校では、ストレスを感じることは自然なことであること、適度なストレスは精神発達上必要なものであり、自分にあった対処法を身に付けることが大切であることを学習してきている。

それらを踏まえ、高等学校では、過度のストレスは心身に好ましくない影響をもたらすこと、原因となる要因そのものの大きさとそれを受け止める人の精神や身体の状態によって影響の大きさは異なることから、自分なりのストレスの対処法を身に付けることが精神の健康のために重要であることを理解できるようにする。

その際、ストレスの原因となっている事柄に対処すること、ストレスの原因についての自分自身の受け止め方を見直すこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動等のリラクゼーションの方法で緩和することに触れるようにする。また、それらについては、周りから支援を受けることやコミュニケーションの方法を身に付けることが有効な場合があることに触れるようにする。

なお、事故災害後には、ストレスにより障害が発生することもあることにも触れるようにする。これによって、現在及び将来の生活において、ストレスに適切に対処することができるようになるための基礎としての資質や能力を育成することを目指す単元であると考えている。

4. 単元計画

	第1時	第2時(本時)	第3時
	ストレスの原因とその影響	ストレスの対処①	ストレスの対処②
主な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ○適度なストレスは精神発達上必要なものであるが、過度のストレスは心身に好ましくない影響をもたらすことがあること。 ○ストレスの原因には、物理的要因や心理的・社会的要因など様々なものがあること。 ○ストレスの影響は、要因そのものの大きさとそれを受け止める人の精神や身体の状態によって異なること。 ○事故災害後には、ストレスにより障害が発生することもあること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ストレスへの対処には、ストレスの原因となっている事柄に対処すること、自分自身の受け止め方を見直すことがあること。 ○自分なりのストレス対処法を身に付けることが、精神の健康のために重要であること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○心身に起こった反応については、体ほぐしの運動等のリラクゼーションの方法でストレスを緩和したり、周りから支援を受けることやコミュニケーションの方法を身に付けることが有効であったりすること。

主な学習活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. ストレスの要因や大きさが、健康に与える影響について考える。 2. 社会の変化に伴いストレスの大きさや原因にも変化が見られること、原因に応じた対処が重要であることを理解する。 3. ストレスの原因について、ワークシートを使い社会的要因や心理的・社会的要因に分類し、様々な要因があることを理解する。 4. 事故災害後には、過度のストレスにより、障害（PTSD）が発生することもあることについて知る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ストレスの原因となっている事柄への対処の仕方や受け止め方を見直し、自己の課題を見付け、軽減できる方法を考える。 2. 精神の健康のために自分なりの対処法を身に付けることの必要性について、グループで意見交換をし、まとめる。 3. 今後迎える年代の健康不安の資料から、自分なりのストレスへの対処法を身に付けることの重要性を考える。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体ほぐし等の運動等のリラクゼーションの方法で、ストレスを緩和することにつなげられることについて知る。 2. 専門家や専門機関に相談しやすい支援体制の充実や社会環境づくりについて考える。
---------------	---	--	--

5. 展開例 (2/3)

(1) ストレスの対処①

(2) 本時の目標

- ・ ストレスへの対処について、見付けた課題から自分なりのストレス対処法を見付けたり、整理したりするなどして、それらを説明することができるようにする。 (思考・判断)
- ・ ストレスへの対処には、ストレスの原因となっている事柄に対処することや自分自身の受け止め方を見直すこと、自分なりのストレスの対処法を身に付けることが、精神の健康のために重要であることについて、理解したことを発言したり、記述したりすることができるようにする。 (知識・理解)

(3) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

時間	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 10分	<ol style="list-style-type: none"> 1. Aさんの事例を提示し、大きなストレスを乗り越えるためには、どのような対処をしたのか予想する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 事例1 Aさんは、二日間の試合の初日、ミスの連発で、目指してきたメダルが絶望となった。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> Aさんが、一日目の試合結果によりできたストレスに対して、どのように対処したかを予想してみよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ Aさんが、次の日に良い結果を出すことができたのは、ストレスに対してどのように対処したのかを予想する。(資料1に、予想した対処の仕方や受け止め方をメモする。) 2. 本時のねらいを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ストレスの原因となっている事柄への対処の仕方や受け止め方を見直し、自分なりの対処法を身に付けることの重要性について考えてみよう。 </div> 	<p>○二日目の試合では、一日目とは別人のようになった様子に注目し、予想するよう伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">Aさんの事例</p> <p style="font-size: small;">1日目 ショートプログラムでジャンプ全てでミス、メダルは絶望的となる 国民の期待を背負っていた</p> <p style="font-size: small;">2日目 フリープログラムで全てのジャンプを成功！ 6種類のジャンプを8回着氷し、自己ベストをマークし、6位入賞</p> </div> <p>ストレスの大きさは、その原因や受け止め人の身体の状態によって異なることから、対処法についても様々な方法を考えていくことが大切であることを伝えよう。</p>

3. 身近な事例を提示し、自分のストレスの対処法を見直す。

事例2 放課後、仲の良い友達が自分一人を残して映画に行ってしまった。

この事例から、ストレスに対してどのように対処するか、自分のストレスの原因への対処の仕方や受け止め方について考えてみよう。

- ・資料2のワークシートを活用しながら、事例から考えられるストレスの軽減につながる対処法を考え、発表する。
- ・考えた対処法をストレスの原因への対処、受け止め方を変えることでの対処、誰かに話すなどのコミュニケーションによる対処の方法に分類しながら、様々な対処法を更に考える。
- ・ストレスの原因に対処することや受け止め方を変えることで、難しいと感じたことや不安感があったことなどについて振り返りながら、自己の課題について資料3のワークシートにまとめる。
- ・見つけた課題をもとに、自分なりのストレスが軽減される対処法について、更に考えて見付ける。



4. ストレスを軽減するための自分の対処法を見直すことで見つけた自己の課題やストレスへの対処法を今後（将来）の生活において生かすことについて、グループで意見交換し、まとめる。

資料3のワークシートに書き出したことをもとに、グループで意見交換しよう。

- ・グループ内で出されたストレスに対処するときの課題や自分なりの対処法を身に付けることが今後どのようなことにつながるのかということについて、資料4のワークシートに整理し、グループごとに発表する。

〈予想される反応〉

- ・前向きに受け止め方を変えることは難しい。

○まずは、自分の経験から思い浮かぶ対処の仕方や受け止め方を記入するよう伝える。
ワークシート；生徒の記入例

ストレス対処法発見シート

状況	放課後、仲の良い友達らが、私だけを残して映画に行った。		
客観的な事実(ストレスの原因)	・映画に行くことを知らされなかった理由が全く分からない。		
ストレスを感じたときの気持ちや行動	・孤独感、不安、屈辱感、悲しい ・今後話しづらい、どのように接していいか分からない。		
自分のできるストレスへの対処方法(受け止め方や行動)	・なぜ、誘わなかったかを聞いてみる。(聞きたいが、聞きづらい) ・自分を気遣い誘わなかったのだろうと思う。 ・自分が何か置かれる原因を作っていないか考える。		
対処の方法	原因への対処	受け止め方を変える対処	コミュニケーション
どのようにするか?	・なぜ、誘わなかったかを聞いてみる。	・自分を気遣い誘わなかったのだろうと思う。	・なぜ、誘わなかったかを聞いてみる。 ・聞きづらいことなど、別の友達に相談する。
その後の気持ちや行動の変化(予想)	・不安がなくなる。 ・誘われなかった理由が分かる。 ・自分が置かれぬ原因を作っていたら、改善できる。		

(※ ワークシートは次時にも使用)

- ストレスを解消できる方法を具体的に考えることができるよう、ストレスを感じるようになった状況に注目するよう助言する。
- ストレスの大きさや受け止め方は、個々に大きな違いがあることや個々の考えを尊重することを伝えておく。(始めから、マイナスに受け止めないこともある。)
- マイナスな受け止め方をしているときは、柔軟な考え方や前向きな気持ちを妨げたりすることに気付くことができるよう促す。

◆【思考・判断】

ストレスへの対処について、見つけた課題から自分なりのストレス対処法を見付けたり、整理したりするなどして、それらを説明している。(ワークシート・観察)

- お互いの意見を参考にすることで、新しいことに気付くなど、考え方の広がりをも促す。
- ストレスに対して受け止め方を変えることは難しいなど、課題が見られるときは、他の方法を選択するという考えにもつなげていくことができるよう、Aさんの事例で補足する。(コミュニケーションをとることや周囲の支援により、次の目標や行動が見付かることがあることなど)

〔補足する事例内容の例〕

- ・コーチの助言から受け止め方を変えることができた。(過去の大会で、熱を出した選手の入賞事例を聞き、熱が出ていない自分にもできない訳はないと考えることができた。)

- ・自分でできない場合は、相談するなど周囲に助けをもらうことも大切であると思う。
- ・受け止め方をポジティブに変えることは難しいが、受け止め方を変えることができることで、その後の人生も変わると思う。



・ストレスへの対処には、ストレスの原因となっている事柄に対処すること、自分自身の受け止め方を見直すことがあること。

5. 今後に向けて、「健康意識に関する調査(2014)」資料をもとに、若者のストレスによる健康不安の状況から対処法の重要性を考える。

若い世代における健康不安の現状から、今後、私たちが健康な生活をしていくために必要なことを考えよう。

- ・資料5から、ストレスによる健康不安は、どの世代が高いか読み取る。
- ・数年後に迎えることになる年代の状況に注目し、学習してきたことをもとに、個人で今からできることなどを考える。
- ・資料を活用しながら自分たちの未来に向き合い、20～39歳の世代で精神的に疲労したり、ストレスがたまりやすかったりする背景や要因、対処法を身に付けることについて、更に考える。

・自分なりの対処法を身に付けることが、精神の健康のために重要であること。

- ・家族から電話をもらい、翌日の試合に向け気持ちが前向きになった。
- ・これまで支えてくれた周囲の人に対して、感謝の気持ちを示すためにも、最後まで自分の演技を精一杯するという気持ちになった。

◆【知識・理解】

ストレスへの対処には、ストレスの原因となっている事柄に対処することや自分自身の受け止め方を見直すこと、自分なりのストレスの対処法を身に付けることが、精神の健康のために重要であることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。(ワークシート・観察)

資料5



- 資料に着目ポイントに印を入れ、現状や健康課題を考えやすくする。
- 若者の実態から、ストレスを対処していくことについて、将来をイメージしながら考えることを促す。

若い世代における、ストレスからくる健康不安の状況を知ること、学習してきたことを今後の生活の中で生かそうとする意欲につなげましょう。



まとめ5分

5. 学習のまとめをする。
- ・ストレスの原因となっている事柄への対処や自分自身の受け止め方を見直すことで、自分なりの対処法を見付けたり、ストレスを軽減したりすることにつながるについて振り返る。
 - ・ストレスに適切に対処できることは、現在及び将来の健康な社会生活にとって重要であることについて振り返り、まとめる。

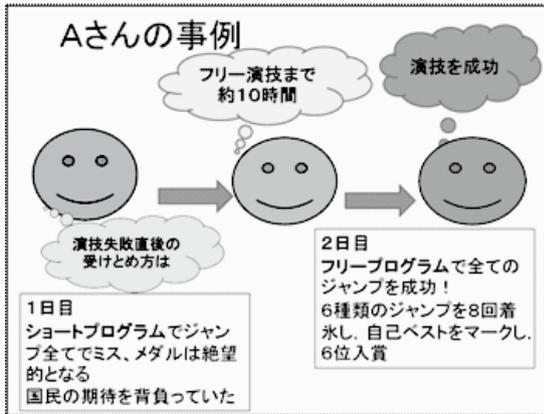
- 自分なりのストレスの対処法を獲得していくことは、健康な社会生活に向け重要であることを伝え、今後の学習や本時で学習したことを生活に生かす意欲につなげる。

今後の生活に、夢や希望をもてるようなメッセージを伝えましょう。



(4) 資料等

資料1 「Aさんの事例」



資料2 「ストレス対処法発見シート」

状況	放課後、仲の良い友達らが、私だけを残して映画に行った。		
客観的な事実(ストレスの原因)	・映画に行くことを知らされなかった理由が全く分からない。		
ストレスを感じたときの気持ちや行動			
自分ができるストレスへの対処方法(受け止め方や行動)			
対処の方法	原因への対処	受け止め方を変える対処	コミュニケーション
どのようにするか？			
その後の気持ちや行動の変化(予想)			

資料3 「受け止め方を変えることはどのようなことにつながるか」

月 日() HRNO 氏名

原因に対処したり受け止め方を変えようとしたときに、難しいと思ったことやその理由について	見つけた自分の課題について(できるようになっていきたいと思うことやその理由について)
適切な対処法を見つけることは、どのようなことにつながるか。	

資料4 「グループ活動；適切な対処法を身に付けることの影響について」

グループで意見を伝え合い、考えを深めよう！「適切な対処法を身に付けることの影響について」
班 グループの班員

今すぐ原因を止めよう！ 原因を止めるために 誤りを繰り返さない 方法を覚えよう！ 難関を乗り越えよう！ 難関を乗り越えよう！ 難関を乗り越えよう！	
な行進 くる切 ことな に つは な 法 がど るの 身 かよ う	

資料5 「若者の状況に注目」 (資料：平成26年度版 厚生労働白書 厚生労働省政策統括官付政策評価官室委託「健康意識に関する調査」〔2014〕より)



6. 他の時間との関連（特別活動の時間との関連）

科目「保健」では、「ストレス」との関連を取り上げることができる内容として、「生活習慣病と日常の生活行動」、「飲酒、喫煙と健康」、「薬物乱用と健康」、「生涯の各段階における健康」、「労働と健康」など、多くのものがある。

また、科目「体育」の「A 体づくり運動 1 運動 (1) 体ほぐしの運動」においては、体の調子を整えるだけでなく、心の状態を軽やかにし、ストレスの軽減に役立つようにする運動について学ぶ。

このことと関連付けて、科目「保健」では、「身体的変化が精神に及ぼす影響と精神的変化が身体に及ぼす影響との両面から理解できるようにする」ことの学習を取り上げることにもできる。科目「保健」の内容や科目「体育」との関連を図る際には、関連する内容や教材を授業の導入や展開で取り上げることによって、一層効果的な学習につながると考えられる。

関連付けて取り上げる際に、ストレスによって「心身に起こった反応については、体ほぐしの運動等のリラクゼーションの方法で緩和することができること」について、知識を活用する学習活動を行い、対処法の重要性に気付くことができるようにすることは、現在及び将来の生活において適切なストレス対処ができるようになる基礎としての資質や能力を育成することにつながるものと期待できる。科目「保健」の学習は、一単位時間はもとより、他の時間との関連による充実が重要となるであろう。

5. 第1学年（1）現代社会と健康 応急手当「心肺蘇生法」

1. 単元名 応急手当

2. 単元の目標

- ・ 応急手当の意義，日常的な応急手当や心肺蘇生法について，資料を見たり，読んだり，実習，話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。
(関心・意欲・態度)
- ・ 応急手当の意義，日常的な応急手当や心肺蘇生法について，資料等で調べたことをもとに，課題を見付けたり，整理したり，分析したり，評価したりするなどして，筋道を立ててそれらを説明することができるようにする。
(思考・判断)
- ・ 適切な応急手当は，傷害や疾病の悪化を軽減できること，応急手当には，正しい手順や方法があること，心肺蘇生等の応急手当は，傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから，速やかに行う必要があることについて，理解したことを発言したり，記述したりすることができるようにする。
(知識・理解)

3. 単元について

応急手当においては，適切な応急手当は，傷害や疾病の悪化を軽減できること，応急手当には，正しい手順や方法があること，また，心肺蘇生等の応急手当は，傷害や疾病によって身体が時間経過とともに損なわれていく場合があることから，速やかに行う必要があることを理解できるようにする必要がある。また，心肺蘇生法では，心肺停止状態においては，急速に回復の可能性が失われつつあり，速やかな気道確保，人工呼吸，胸骨圧迫，AED（自動体外式除細動器）の使用などが必要であることを理解できるようにすることとなっており，その際には原理や方法については，実習を通して理解できるように配慮するものとなっている。

そこでまずは，心肺蘇生法を実施しなければいけない場面に遭遇した場合の行動について，主体的に考える学習を行い，その学習から速やかな心肺蘇生法の実施につながらない「手順や方法などが分からない」等の課題を解決するために，心肺蘇生法の意義や手順等の知識をしっかりと身に付け，その後の実習で確実な定着を目指すとともに，気道確保，人工呼吸，胸骨圧迫，AED（自動体外式除細動器）の使用について，速やかな実施につなげることとした。

その際，心肺蘇生法の実習を四人組で行うことにより，周囲の人々に協力を要請することの大切さを学ぶことができるようにするとともに，また，その実習の様子を別の四人組が評価することにより，より深く知識の定着を図ることができるように工夫した。

4. 単元計画

	第1時	第2時	第3時（本時）	第4時
	応急手当の意義	応急手当の手順・方法Ⅰ	応急手当の手順・方法Ⅱ（実習）	日常における応急手当
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な応急手当は，傷病者の苦痛を緩和できること。 ○自他の生命や身体を守り，不慮の事故・災害に創るには，自ら進んで行う態度を養うことが必要であること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自他の生命や身体を守り，不慮の事故・災害に対応できる社会環境を作るためには，一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付ける必要があること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○心肺停止状態においては，急速に回復の可能性が失われつつあり，速やかな気道確保，人工呼吸，胸骨圧迫，AED（自動体外式除細動器）の使用が必要であること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活で起こる傷害や，熱中症などの疾病の際には，それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の手順や方法があること。
学習活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. 応急手当の意義について理解する。 2. 応急手当が必要な場面に遭遇したとき，どのような行動を取るか，個人やグループ等で考え，発表し合う。 3. 自ら進んで行う態度が必要であることについて，自分の行動を通して考える。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 応急手当の手順や方法，適切な連絡・通報の方法や運搬時の注意点について考える。 2. AED（自動体外式除細動器）の使用が必要な疾病について知る。 3. AEDの仕組みや使用の手順について知る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 気道確保，人工呼吸，胸骨圧迫，AED（自動体外式除細動器）の実習を行う。 2. 他者が実施した心肺蘇生法等の手順や方法が正しいかどうか判断したり，指摘したりして，評価し合う。 3. 心肺蘇生法は速やかに行う必要があることについて理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活のどのような場面や状況で傷害や熱中症などの疾病が発生するか調べ，発表する。 2. 日常生活で起こる傷害や熱中症などの疾病についての応急手当について調べ，まとめる。

5. 展開例 (3/4時間)

(1) 応急手当の手順・方法Ⅱ (実習)

(2) 本時の目標

- ・心肺蘇生法について、仲間と協力して、実習に取り組むことができるようにする。

(関心・意欲・態度)

- ・心肺蘇生法の手順や方法について、学習したことを実習の場面で関連付けるなどして、筋道を立ててそれらを説明することができるようにする。

(思考・判断)

(3) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

時間	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 10分	<p>1. 前時の学習内容を振り返る。</p> <div style="border: 2px solid #0070C0; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>応急手当を行うことで、どのような効果が期待できるだろうか。また、応急手当をする際に AED (自動体外式除細動器) を使用するのはなぜだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート (資料1) を使って、仲間と知識を確認する。 	
展開 35分	<p>2. 心肺蘇生法の「実習を実施する班」と「実習を評価する班」の二班で一つのグループとなり、ダミー人形を中心に集まる。実習の途中で「実習を実施する班」と「実習を評価する班」は入れ替わる。(下図参照)</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>実習を実施する班(4人) AED(5台) 実習を評価する班(4人) 8人組グループ</p> </div> <p>3. 活動内容について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班で四つの役割を分担して、心肺蘇生を行うこと。 ・実習を行っている班の様子を、もう一つの班が評価ポイントにしたがって評価すること。 ・それぞれの実習が終わった後に、互いの課題や改善点等について意見交換を行うこと。 <div style="border: 2px solid #0070C0; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>心肺蘇生法の流れを再確認しながら、仲間を評価するときのポイントをおさえよう!</p> </div> <p>4. 四つの役割 A~D について、教師の実演を交えながら、評価のポイントを伝える。(資料2・4) その際、それぞれの手順を速やかに行うことが必要であることを理解する。</p> <p>役割 A (第1発見者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傷病者発見→意識の確認→協力者要請→協力者への指示→気道の確保→呼吸の有無の確認→人工呼吸 	<p>○心肺蘇生法の実習を取り入れる際には、実習を通してその意義や手順などの内容について理解を深めることに留意する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>これまでに学習してきた知識をもとに実習を通して適切な評価や意見交換を行うように伝えましょう。</p> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> </div> <p>○それぞれの役割を実演しながら説明し、手順等を理解させる。 ○それぞれの役割に応じた応急手当の手順や方法が割り当てられていることを伝える。</p>

- 役割 B (役割 A の補助等)
 ・協力者集合→胸骨圧迫→AED 装着補助
 →人工呼吸
- 役割 C (AED 操作)
 ・協力者集合→AED の探索
 →AED の装着→心電図解析での指示
 →電気ショック時の指示・ボタン操作
- 役割 D (通報等)
 ・協力者集合→119 番通報→救急車の要請
 →胸骨圧迫
5. 「実習を実施する班」の中で、担当する役割 A～D を決める。
6. 心肺蘇生法の手順と仲間の実技を評価するときの評価ポイントについて再確認する。(資料 2・3・4)
 ・役割ごとに二人組となり、下記の発問について考えることを通して、評価ポイントを互いに確認し、共有する。

(各役割への発問)

- (役割 A) 役割を並べ替え、全体の流れを確認しよう。
- (役割 B) 胸骨圧迫と人工呼吸の行い方を確認しよう。
- (役割 C) AED 操作時の注意点を確認しよう。
- (役割 D) 救急車を要請するときに伝えることを確認しよう。

応急手当には、正しい手順や方法があること。速やかな心肺蘇生法の実施が必要であること

・心肺蘇生法について、仲間が行った手順や方法が正しいか評価し、課題や改善点を指摘しよう。

7. はじめに「実習を実施する班」が手順(資料 2)に従って心肺蘇生法の実習を行い、「実習を評価する班」が、その実習の手順や方法が正しいかどうか評価するとともに、課題や改善点を指摘する。
- ・「実習を実施する班」は、「5.」で決めた役割に従って、実習を行う。
 - ・「実習を評価する班」は、「5.」で決めた役割の実習を行っている生徒について、「4.」で示した評価ポイントと「6.」で確認したことを参考に評価し、課題や改善点を評価シート(資料 3)に記入する。



心肺蘇生法を一人で行うことは、とても大変であるため、できるだけ周りの人々に協力を依頼すると良いことについても触れましょう。



- 速やかに心肺蘇生等を行うことが必要であることが重要なポイントであることを理解させる。

心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあることについても確認しましょう。



- 速やかに手順等を実施するように指導する。
- 「4.」で示した評価ポイントと「6.」で確認したことを参考にするように指導する。
- ◆関心・意欲・態度
 心肺蘇生法について、仲間と協力して、実習に取り組もうとしている。
 (行動観察・評価シート)

実習中は、各グループを巡回しながら、実施者と評価者のどちらも気付いていない間違い等があれば、指摘しましょう。



	<p>8. 「7.」が終わった班から、「実習を実施する班」と「実習を評価する班」を交代して、実習を行う。</p>  <p>実際の実習風景</p> <p>9. それぞれの実習が終わったら、評価シート（資料3）をもとに、仲間が実施した心肺蘇生法の手順や方法について、互いに課題や改善点等について意見交換を行う。</p>	<p>○評価者が否定的な言動を行わないなど、実施者が積極的に行うことができるような雰囲気となるよう配慮する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>仲間を評価する際には、手順が正しいかどうかに加え、評価した理由についても考えることで、学習した知識を生かした活動となります。</p> </div>  <p>◆思考・判断 応急手当の方法，特に心肺蘇生法の手順や方法について，学習したことを実習の場で関連付けるなどして，筋道を立ててそれらを説明している。 （行動観察・評価シート）</p>
<p>まとめ5分</p>	<p>10. 本時の振り返り等を記入する。</p> <p>11. 実習の様子を振り返るとともに，下記の点について，再度，確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心肺蘇生法には，正しい手順や方法があること。 ・傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があるため，心肺蘇生法等の応急手当は，速やかに行う必要なあること。 <p>12. 傷病者を発見したときにはどのように行動しようと思うか，記入する。</p>	<p>○心肺蘇生法等の応急手当は速やかに行う必要なあることについて，確認する。</p> <p>○実習のときに，多くの生徒が間違っていた点について，正しい手順や方法を確認する。</p>
<p>あなたの前に人が倒れています。どうしますか？</p>		
<p>・「応急手当の意義」（第1時）の終わりに生徒に問いかけた発問（資料5）について，各自で考え，自分の行動とその理由を記入する。</p>		

(4) 資料等

資料1 確認のためのワークシート

<p>○心肺蘇生法の手順</p> <p>① () を調べる → ② () を呼ぶ → ③ () の確保 → ④ () の有無を調べる → ⑤人工呼吸 () 回 → ⑥胸骨圧迫 () 回 → ⑦ () 到着，装着，電気ショック → ⑧胸骨圧迫 () 回 → ⑨人工呼吸 () 回。(⑧⑨の繰り返し)</p> <p>○AEDとは</p> <p>突然心臓が止まって倒れた人の多くは，() という状態にある。() を起こした心臓に() を与えることで，心臓の拍動を正常に戻す機器のこと。できるだけ早くAEDを使用すれば() がある！</p> <p>(語群) 5 2 6 30 100 助け 反応 呼吸 気道 AED 心室細動 心臓細動 電気ショック マッサージ 救命率</p>
--

資料 2 ^{そせい} 心肺蘇生法の手順等

	役割 A (第 1 発見者)	役割 B (A の補助等)	役割 C (AED 操作)	役割 D (通報等)
主 ボ ナ イ 評 価 ト の	<ul style="list-style-type: none"> 意識の確認 協力者要請 協力者への指示 気道の確保 呼吸の有無の確認 人工呼吸 	<ul style="list-style-type: none"> 胸骨圧迫 AED 装着補助 AED 装着補助から人工呼吸への移行 人工呼吸 	<ul style="list-style-type: none"> AED の探索 AED の装着 心電図解析での指示 電気ショック時の指示・ボタン操作 	<ul style="list-style-type: none"> 119 番通報 救急車要請 (評価者を相手に) 救急車要請から胸骨圧迫への移行 胸骨圧迫
発問	役割を並べ替え、全体の流れを確認しよう。	胸骨圧迫と人工呼吸の行い方を確認しよう。	AED 操作時の注意点を確認しよう。	救急車を要請するときに伝えることを確認しよう。
手順	傷病者発見			
1	① ()			
2	② ()			
	協力者集合 (役割 B~C 集合)			
3	③ 協力者への指示		・ AED の探索	・ 119 番通報
4	④ ()			・ 救急車の要請
5	⑤ ()			
6	⑥ 人工呼吸			
7		・ 胸骨圧迫		
	AED が到着			
8		・ AED の装着補助	・ AED の装着	
9			・ 心電図の解析	
10			・ 電気ショックのボタン操作	
11		・ 人工呼吸		
12				・ 胸骨圧迫

資料 3 ^{そせい} 心肺蘇生法の実習における評価シート

(役割 A 用) 実施者 () 記入者 ()

活動・動き	評価のポイント	評価 (◎○△)	評価した理由 (特に◎や△と評価した場合、その理由を書いてください)	自己分析
意識の確認	速やかに反応の有無の確認を行っているか。			
協力者要請・指示	速やかに協力を要請し、指示をしているか。			
気道の確保	速やかに気道を確保しているか。			
呼吸の有無の確認	速やかに呼吸の有無を確認しているか。			
人工呼吸	人工呼吸の方法は適切であるか。			
	合計点			

☆合計点は、◎良い：2 点、○普通：1 点、△改善点が多い：0 点で付けてください。

【評価者からの一言】

【評価者からグループに一言】

資料4 各役割の評価ポイント例

○役割 B		○役割 C		○役割 D	
活動・動き	評価のポイント	活動・動き	評価のポイント	活動・動き	評価のポイント
協力者集合	速やかに集合しているか。	協力者集合	速やかに集合しているか。	協力者集合	速やかに集合しているか。
胸骨圧迫	胸骨圧迫の方法は適切であるか。	AEDの探索	指示後、速やかに行動しているか。	119番通報	指示後、速やかに行動しているか。
AEDの装着補助	AEDの装着に協力しているか。	AEDの装着	速やかにAEDを装着しようとしているか。	救急車要請(評価者を相手に)	速やかに救急車を要請しているか。
AED装着補助から人工呼吸への移行	速やかに交代しているか。	心電図解析での指示	周りの人に適切に声をかけたか。	救急車要請から胸骨圧迫への移行	速やかに交代しているか。
人工呼吸	速やかに人工呼吸を実施しようとしているか。	電気ショック時の指示・ボタン操作	適切な声かけ後、電気ショックを行ったか。	胸骨圧迫	胸骨圧迫の方法は適切であるか。

資料5 「応急手当の意義」(第1時)の最後の質問

【前を歩いていた人が、突然、倒れました。あなたは、どうしますか？あなたの行動に最も近い行動を選択し、その理由を書いてください。】

- A すぐに歩み寄って、声をかける。
 B 状況を見て、歩み寄り、必要ならば声をかける。
 C 何もしないで通りすぎる。
 D その他 ()

選択した
行動は？

理由

6. 特別活動等の時間との関連

高等学校の科目「体育」における「D水泳」では、水泳の事故防止に関する心得等の指導について、「内容の取扱い」に「保健」における応急手当の内容との関連を図ることとなっており、溺れている人を見つけたときの救助法の一つとして、学習することとなっている。また、特別活動の学校行事における健康安全・体育的行事の実施上の留意点では、体育に関する行事において、学校全体として事故の発生の際に備えて、その防止と万が一の場合の準備や緊急時の対策などについても、あらかじめ十分配慮しておく必要があるとなっており、関連させて学習することもできると思われる。さらに、ホームルーム活動における「生命尊重に関すること」と関連させたり、部活動中の事故防止のために、部活動に参加している生徒を対象とした心肺蘇生法等の講習会を行ったりするなど、学校の教育活動における様々な場面で心肺蘇生法等を取り上げることで、生徒がより速やかに心肺蘇生法を実施することにつながっていくものと思われる。

6 (2)生涯を通じる健康 ア生涯の各段階における健康「結婚生活と健康」

1. 単元名 結婚生活と健康

2. 単元の目標

- ・結婚生活と健康について、課題解決に向けた話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。(関心・意欲・態度)
- ・結婚生活と健康について学習したことを、課題解決を目指して、事例を比較したり、分析したりして、筋道を立てて説明することができるようにする。(思考・判断)
- ・結婚生活と健康の健康課題とそれに応じた自己の健康管理及び環境づくりがかかわっていることについて、理解できるようにする。(知識・理解)

3. 単元について

結婚生活と健康では、健康な結婚生活について、心身の発達や健康状態など保健の立場から理解できるようにする。その際、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響について理解できるようにし、結婚生活を健康に過ごすために、自他の健康への責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、母子への健康診査の利用などの保健・医療サービスの活用が必要なことを理解できるようにする。

本単元では、我が国における晩産化の傾向に触れ、「年齢が上がると、出産のリスクが上昇する。」という内容を踏まえて、学習を進めることとした。結婚生活は、高校生にとって近い将来として考えられる社会生活である。これに向けて、結婚生活に伴う受精、妊娠、出産の健康課題と自己の健康管理の必要性、保健・医療サービスの活用などの理解から、健康に過ごすためには、適切な意志決定と行動選択が不可欠であることの理解につなげていきたい。

4. 単元計画

	第1時(本時)	第2時	第3時
	結婚生活と健康	受精、妊娠、出産と健康	家族計画の意義と人工妊娠中絶の心身への影響
主な学習内容・学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○結婚生活には、多くの場合、出産に伴い、心身の発育・発達が必要なこと。 ○結婚生活には、多くの場合、出産に伴い、出産に適した年齢を意識することが必要なこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題があること。 ○結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康への責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子への健康審査の利用などの保健・医療サービスの活用が必要なこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康な結婚生活のための家族計画の意義があること。 ○人工妊娠中絶は、心身への影響があること。
	<ol style="list-style-type: none"> 単元の流れと学習内容の確認。 出産するために必要なことについて話し合う。 出産に適した年齢について、平均初婚年齢と母親の平均出生時年齢の年次推移と周産期死亡率のグラフから、グラフからデータを読み取って分析し、説明する。 本時の学習内容をまとめる。 次時の学習内容を知る。 	<ol style="list-style-type: none"> 前時の復習と学習内容の確認。 教材を視聴し、受精、妊娠、出産について整理する。 妊娠、出産期の健康課題への対処について、資料をもとに適切な意志決定と行動選択について話し合い、発表する。 市町の広報誌から、母子への健康診査などの保健・医療サービス行われていることを調べ、利用と活用の必要性について、ワークシートにまとめる。 本時の学習内容をまとめる。 次時の学習内容を知る。 	<ol style="list-style-type: none"> 前時の復習と学習内容の確認。 家族計画の意義について、話し合い、避妊法を項目に合わせて分類する。 人工妊娠中絶のリスクについて、資料から、心と体への影響に分けて考え、妊娠を望まない場合の行動についてまとめる。 本時の学習内容をまとめる。 次時の学習内容を知る。

5. 展開例 (1/3)

(1) 結婚生活と健康

(2) 本時の目標

・結婚生活で出産するために必要なことについて、意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。 (関心・意欲・態度)

・出産に適した年齢について、グラフからデータを読み取って分析し、筋道を立てて説明することができるようにする。 (思考・判断)

(3) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

時間	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 5分	<p>1. 単元の流れと学習内容を確認する。</p> <p style="text-align: right;">資料 1</p> <p>・結婚生活には、多くの場合、子供をもつことが伴うことを理解する。 資料 2-1</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">・将来、何歳で子供をもちたいと思いますか？</p> <p>・子供をもちたい年齢と、その理由を指名により答える。</p> <p>〈予想される回答〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20歳 理由：子供が好きだから。 ・35歳 理由：若いうちは、自分が楽しみたいから。 	<p>○結婚生活と健康について、保健的な立場から学ぶことを説明する。</p> <p>○結婚生活には、妊娠、出産などをする時期であり、多くの場合、子供をもつことが伴うことを説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>即答できる発問により、生徒の興味・関心を引き付け、テンポよく学習内容に引き込みます。</p> </div> 
展開 40分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p>・出産するために必要なことは何だろう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>・結婚生活には、多くの場合、妊娠・出産が伴い、「心身の発育・発達」が必要なこと。</p> </div> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">・出産するために必要なことについて話し合おう。</p> <p>2. 出産するために必要なことについて、グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出産するために必要なことについて考え、一人ずつ、付箋に書き出す。 ・付箋を分類しながら、班ワークシートに貼る。 ・班ワークシートをもとに、グループで話し合う。 ・指名により、話し合ったことを発表する。 <p>〈予想される回答〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠 ・体力 ・出産費用 ・心のゆとり ・周りの人の理解 ・協力すること 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>グループの人数は3~4名とし、話し合いが活発となるようにします。</p> </div>  <p>『板書』</p> <div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 2分間で、付箋に書く。 ● 分類に名前を付ける。 ● 発表では、考えた理由も話すこと。 </div> <p>資料 2-1</p> <p>資料 3</p>



・出産するためには、「体の発育」として、性機能の成熟が必要であることを理解する。

○思春期と健康で学習した、性機能の成熟について確認する。

◆関心・意欲・態度

出産するために必要なことについて、意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。(観察)

○出産するためには、「体の発育」として、性機能の成熟が必要であることを説明するとともに、心の発達の大切さを補足する。

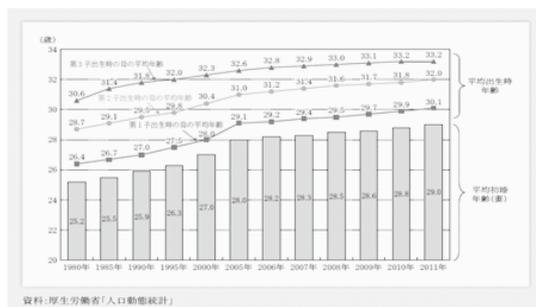
・ 出産に適した年齢について、グラフからデータを読み取って、分析しよう。

・ 出産には、適した年齢があること。

3. 出産に適した年齢について、平均初婚年齢(妻)と母親の平均出生時年齢の年次推移(図1)と周産期死亡率(図2)のグラフから、データを読み取り、分析する。

・ 図1から読み取れることを班で話し合おう。

図1 平均初婚年齢と母親の平均出生時年齢の年次推移



〈予想される回答〉『読み取れること』

・ 母親の平均出生時年齢が、1990年と2011年を比較すると、約20年間で3歳高くなっている。

・ 図2から読み取れることを、班で話し合おう。

〈予想される回答〉『読み取れること』

・ 周産期死亡率は、19歳以下と35歳以上で高く、20歳から34歳では低い。

資料2-2

○周産期死亡率について、説明する。

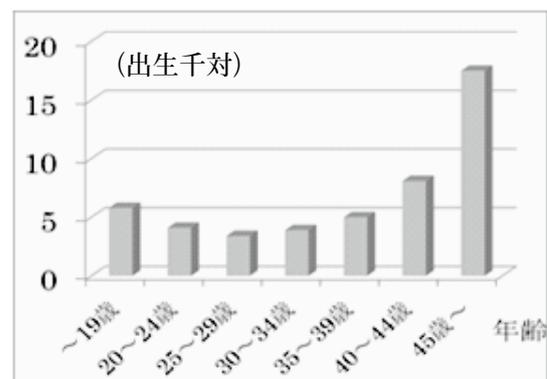
『揭示』

〈周産期死亡率について〉

1年間の1,000出産に対する、周産期死亡(妊娠22週以後の死産と早期新生児死亡の合計)の比率。

○グラフ(母親の平均出生時年齢)の特徴に着目し、読み取ることを伝え、難しい生徒には、着目するデータを指し示す。

図2 資料：厚生労働省人口動態統計(平成22年)



周産期死亡率：妊娠満22週以後の死産と早期新生児死亡の合計

	<p>・出産に適した年齢について、図1と図2から、読み取ったことを分析し、説明しよう。</p> <p>〈予想される回答〉『分析と説明』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親の平均出生時年齢が上昇し、出産年齢が高くなっている傾向があるが、35歳以上の出産は、周産期死亡率が高くなるためリスクが高いことが考えられる。また、19歳以下でも高くなることから、出産に適した年齢は、20歳から34歳である。  <ul style="list-style-type: none"> ・結婚生活では、多くの場合、出産が伴うことから、出産に適した年齢を意識することが必要であることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○出産に適した年齢について、それぞれの図から読み取ったことを比較したり、関連付けたりするなどし、分析した結果を説明するよう伝える。 <p>◆思考・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ○出産に適した年齢について、グラフからデータを読み取って分析し、筋道を立てて説明している。(観察・ワークシート) ○保健は健康にかかわる内容を取り扱うことから、結婚するかしないかの議論にならないように留意する。 <ul style="list-style-type: none"> ○結婚生活では、多くの場合、出産が伴うことから、出産に適した年齢を意識することが必要であることを説明する。
<p style="writing-mode: vertical-rl;">まとめ5分</p>	<p>5 本時の学習内容をワークシートに記入する。資料1</p> <p>6 次時の学習内容を知り、見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートに記入できているかを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>本時の学習内容をワークシートにまとめられるようにし、知識の定着を図ります。</p> </div>  <ul style="list-style-type: none"> ○次時の学習内容を伝える。

(4) 資料等 (ワークシートの工夫)

ワークシートは、生徒が学習の流れを把握し、見通しをもって、授業に取り組むことができるように作成した。

本時の学習内容を穴埋め形式で記載し、豆知識を紹介することにより、生徒が、「何を学習するのだろう。」といった知的な関心を呼び起こし、学習活動で使用する資料(グラフやデータ等)では、発問とともに掲載することにより、「何をどうするのか」を理解して、取り組むことができるようにしている。また、授業のまとめで、学習内容を穴埋めしながら振り返ることにより、知識の定着を図ることができるようにしている。

ワークシートの使用により、教師と生徒が学びの過程を振り返ることができることから、次時の指導と学習の改善に役立つと考える。

資料 1

2年組 番名前

結婚生活と健康(単元の流れと豆知識)

【学習内容】
 (2) 生涯を通じる健康 ア 生涯の各段階における健康 (イ) 結婚生活と健康

○ 高校卒業後、近い将来の社会生活として、「結婚生活」が考えられます。「健康な結婚生活」を送るために必要なことを学びます。

・結婚生活では、多くの場合、出産に伴い、()が必要なこと。
 ・結婚生活では、多くの場合、出産に伴い、出産に適した()を意識することが必要なこと。

【学習計画】

1	2	3
結婚生活と健康	受精、妊娠、出産と健康	家族計画の意識と人工妊娠中絶の心身への影響

(豆知識 1)
 プライダルチェック(結婚前の健康診断)

・遠くない将来に、結婚する人が受ける健康診断のこと。
 ・お互いの健康状態(生活習慣病・アレルギー・体質・感染症など)を知っておくことで、結婚後に対策をとることができます。

(豆知識 2)
 妊娠・出産適齢期ってなんだろう?

・25歳から35歳と書われています。
 ・妊娠と年齢の関係について知らない若者(15~39歳)は、31.2%でした。
平成25年厚生労働省白書より

資料 2-1

2年組 番名前

結婚生活と健康(ワークシート)

1 将来、何歳で子供を持ちたいと思いますか?

歳

理由

2 出産するために必要なこと
 ()

思い出そう!
 —思春期と健康—

☆ 性機能の成熟 ☆
 女性: 排卵と月経が一定のリズムをもつ()。
 男性: 精液が発達し、射精が起こる。

3 「図1」から、読み取れることを書き出そう!

図1 平均初婚年齢と母親の平均出生時年齢の年次推移

資料:厚生労働省「人口動態統計」

資料 2-2

<読み取れること(図1)>

4 「図2」から、読み取れることを書き出そう。

図2

資料：厚生労働省人口動態統計

(出産千対)

周産期死亡率：妊娠満22週以後の死産と早期新生児死亡の合計

<周産期死亡率について>
1年間の1,000出産に対する、
周産期死亡(妊娠22週以後の死産と
早期新生児死亡の合計)の比率。

<読み取れること(図2)>

5 出産に適した年齢について、図1と図2から、読み取ったことを分析し、説明しよう！

<分析と説明>

資料 3

結婚生活と健康(班ワークシート)

出産するために必要なことはなんだろう？

()

()

()

()

()

()

6. 他の時間との関連 (特別活動の時間との関連)

特別活動のホームルーム活動の内容として、適応と成長及び健康安全で、「男女の相互理解と協力」が示されている。

ここでは、日常の諸問題などに対して互いに協力して問題を解決し、共に充実した学校生活を築くような主体的な意識や態度を育成するとともに、家庭や社会における男女相互の望ましい人間関係の在り方や男女共同参画社会などについて、幅広く考えていくことが望まれている。

これに向けて、ホームルーム活動では、思春期と健康及び結婚生活と健康での学習を踏まえて、男女の相互理解と協力、人間の尊重と男女の平等、異性交友の望ましい在り方、男女共同参画社会と自分の意識などの題材を設定し、アンケートやインタビューをもとに話し合ったり、新聞やテレビ等の資料をもとに話し合ったり討論したりして展開していくことが考えられる。

この際、心身の発育・発達における個人差にも留意して、生徒の実態に基づいた指導を行うことが大切である。

○性に関する指導の留意点

ここでは、学校における性に関する指導について述べる。

平成20年1月の中央教育審議会答申では、学校における性に関する指導に関連する内容として次のように示された。

(心身の成長発達についての正しい理解)

○学校教育においては、何よりも子供たちの心身の調和的発達を重視する必要がある。そのためには、子供たちが心身の成長発達について正しく理解することが不可欠である。しかし、近年、性情報の氾濫など、子供たちを取り巻く社会環境が大きく変化してきている。このため、特に、子供たちが性に関して適切に理解し、行動することができるようにすることが課題となっている。また、若年層のエイズ及び性感染症や人工妊娠中絶も問題となっている。

○このため、学校全体で共通理解を図りつつ、体育科、保健体育科などの関連する教科、特別活動等において、発達の段階を踏まえ、心身の発育・発達と健康、性感染症等の予防などに関する知識を確実に身に付けること、生命の尊重や自己及び他者の個性を尊重するとともに、相手を思いやり、望ましい人間関係を構築することなどを重視し、相互に関連付けて指導することが重要である。

また、家庭・地域との連携を推進し保護者や地域の理解を得ること、集団指導と個別指導の連携を密にして効果的に行うことが重要である。

このように、学校での性に関する指導においては、何よりも子供たちの心身の調和的発達を重視する必要がある。そのためには、子供たちが心身の成長発達について正しく理解することが不可欠となる。

また、近年、性情報の氾濫など、子供たちを取り巻く社会環境が大きく変化してきており、子供たちが性に関して適切に理解し、行動することができるようにすることが課題となっていることから、高等学校においては、心身の発育・発達と健康、性感染症等の予防などに関する知識について保健体育科科目「保健」を中心に確実に身に付けることを重視するとともに、特別活動等で生命の尊重や自己及び他者の個性を尊重するとともに、相手を思いやり、望ましい人間関係を構築することなどを重視し、これらに関連付けて指導することに留意する必要がある。

それらを踏まえて、保健体育科科目「保健」では、学習指導要領に次の内容を示している。

第2 保健

2 内容

(1) 現代社会と健康

イ 健康の保持増進と疾病の予防

健康の保持増進と生活習慣病の予防には、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践する必要があること。

喫煙と飲酒は、生活習慣病の要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であること。

感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いが見られること。その予防には、個人的及び社会的な対策を行う必要があること。

(2) 生涯を通じる健康

ア 生涯の各段階における健康

生涯にわたって健康を保持増進するには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりがかかっていること。

3 内容の取扱い

(6) 内容の(2)のアについては、思春期と健康、結婚生活と健康及び加齢と健康を取り扱うものとする。また、生殖に関する機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする。責任感を涵養することや異性を尊重する態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処についても扱うよう配慮するものとする。

学校における性に関する指導は、学習指導要領に示した内容に基づいて実施することが重要である。今回の高等学校学習指導要領の改訂では、内容に大きな変更はないが、総則の教育課程編成の一般方針において、学校における体育・健康に関する指導に、新たに「生徒の発達の段階を考慮すること」を示している。また、体育科、保健体育科の学習指導要領解説で、「指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮することが大切であること」などを新たに示している。さらに、特別活動の学習指導要領解説に、個々の生徒の状況に応じた個別指導が必要となる場合もあることを踏まえ、指導内容によっては集団指導と個別指導との内容を区別しておくなど計画性をもつことが示されている。

したがって、指導に当たっては、次の点に配慮する必要がある。

- ・生徒の発達の段階を踏まえること
- ・学校全体で共通理解を図ること
- ・家庭・地域との連携を推進し保護者や地域の理解を得ること
- ・集団指導と個別指導の連携を密にして効果的に行うこと

このように、集団指導においては、生徒の発達の段階を踏まえた指導ができるように、生徒の実態を把握するとともに、学習指導要領に示した内容に即して発問や教材等を工夫すること、年間指導計画等を通じて学校全体で共通理解を図ること、保護者参観や学校公開日等で授業を公開したり、学校便り等で情報の提供をしたりするなどして保護者や地域の理解を得ることなど、性に関する指導が適切に実施されるために配慮することが大切である。

また、子供たちの心身の成長発達には個人差があることから、すべてを集団指導で教えるのではなく、集団指導で教えるべき内容と個別指導で教えるべき内容を明確にし、それらを関連させて指導することが重要となる。

7. 第2学年 (2)生涯を通じる健康 イ保健・医療制度及び地域の保健・医療機関「医薬品と健康」

1. 単元名 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関

2. 単元の目標

- ・我が国の保健・医療制度や地域の保健・医療機関について、関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。(関心・意欲・態度)
- ・我が国の保健・医療制度や地域の保健・医療機関について、資料等で調べたことをもとに、課題を見付けたり、解決の方法を整理したりするなどして、それらを説明することができるようにする。(思考・判断)
- ・生涯を通じて健康の保持増進をするには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であること、医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること、疾病からの回復や悪化防止には、医薬品を正しく使用することが有効であることについて、理解したことを発言したり、記述したりすることができるようにする。(知識・理解)

3. 単元について

本単元では、生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにすることが示されている。

この中から、本時では「イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関」、特に、「医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること、疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であること」について取り上げる。医薬品には医療用医薬品と一般用医薬品があること、承認制度により有効性や安全性が審査されていること、販売に制限があること、疾病からの回復や悪化の防止には、個々の特性を理解した上で使用法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であることを知識として身に付け、医薬品を有効に使うための思考・判断を促すことにより、医薬品を有効に利用できるようにすることをねらいとしている。具体的には、薬局やドラッグストアの様子から販売の制限を考えたり、一般用医薬品の添付文書や説明書から安全に使用するために必要な情報を読み取る活動を通して、医薬品を正しく使うために必要なことを考えたりする学習活動が組み込まれている。思考力・判断力を高める指導を考慮し、観察やワークシートへの記述を参考に評価する。

4. 単元計画

	第1時	第2時	第3時(本時)
	保健・医療制度及び地域の保健・医療機関		医薬品と健康
学習内容	○生涯を通じて健康の保持増進をするには、保健制度や地域の保健所、保健センターなどを適切に活用することが重要であること。	○生涯を通じて健康の保持増進をするには、医療制度や医療機関などを適切に活用することが重要であること。	○医薬品には、一般用医薬品と医療用医薬品があること及び販売の制限があること。 ○医薬品は、承認制度により有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること。 ○疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であること。

学習活動	<ol style="list-style-type: none"> 健康診断を例に、保健行政とのつながりを考える。 保健行政の組織について、4分野で展開されていることの説明を聞く。 保健所や保健センターなどの保健サービスについて調べる。 自分の住んでいる市町村のホームページにアクセスし、どのような情報が入手できるか考える。 自らの健康づくりのために、保健サービスを積極的に活用することが大切であることを知る。 	<ol style="list-style-type: none"> 自分が病気やケガをしたときにどう対処するかを考える。 医療の供給について、説明を聞く。 医療費と医療保険の仕組みについて調べる。 1の発問に対して、より具体的に、どのような基準で医療機関を選んでいくかを考える。 自己の健康課題に応じた適切な医療機関の選択と医療サービスを活用することが大切であることを知る。 	<ol style="list-style-type: none"> 医薬品を自分で購入したことがあるかどうかを確認し、実際に自分で医薬品を購入することを想像する。 手に取れる場所にある医薬品と、カウンターの奥にあって自分で手に取ることができない医薬品があるのはなぜかを考える。 医薬品には、一般用医薬品と医療用医薬品があること及び販売の制限があること、医薬品は承認制度により有効性や安全性が審査されていることについて理解する。 実際の一般用医薬品の添付文書や説明書から正しく使用するために必要な情報を考える。 授業のまとめを行い、医薬品を使用するときに大切なことを知る。
------	---	---	---

5 展開例 (3/3)

(1) 医薬品と健康

(2) 本時の目標

- ・ 医薬品は、個々の医薬品の特性を理解した上で使用法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であることについて、与えられた資料を使用し、必要な情報を見付けたり、選んだりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができるようにする。 (思考・判断)
- ・ 医薬品には一般用医薬品と医療用医薬品があること及び販売の制限があること、医薬品は承認制度により有効性や安全性が審査されていること、及び疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であることを理解し、発言したり記述したりすることができるようにする。 (知識・理解)

(3) 展開 :ねらい :学習内容 :発問・指示など

時間	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入5分	<ol style="list-style-type: none"> 薬局やドラッグストアで医薬品を自分で購入したことがあるかどうかを確認し、実際に自分で医薬品を購入することを想像する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬局やドラッグストアで医薬品を自分で購入したことがありますか？ ・ ある人もない人も自分で医薬品を購入するときのことを少し想像してみましょう。 </div> 本時のねらいを確認する。 	<p>○生徒に質問を投げかけ、購入したことがあるかないか挙手で確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>近い将来、自分で医薬品を購入する機会があるであろうことを意識させましょう。</p>  </div> <p>○ワークシートを配付し、本時のねらいを確認する。</p>
<p>○医薬品の有効性や安全性を踏まえ、医薬品を正しく使用するにはどういったことなのかを考える。</p>		

3 薬局やドラッグストアで手に取れる場所にある医薬品と、カウンターの奥やガラスケースの中であって自分で手に取ることができない医薬品があるのはなぜかを考える。

また、手に取れない場所にあった医薬品をすぐに購入することができなかった理由について考える。

ワークシート【1】

①薬局やドラッグストアに行くと、手に取れる場所にある医薬品と、カウンターの奥やガラスケースの中であって自分で手に取ることができない医薬品があります。それはなぜなのでしょう？

②手に取れない場所にあった医薬品をすぐに購入することができませんでした。それはなぜだったのでしょうか。理由を考えてみましょう。

・五～七人のグループになり、話し合い、代表者が発表する。

〈予想される発言例〉

- ①危険なものとそうでないもの
値段が高いから
副作用の危険性が高いもの
- ②薬剤師がいなかったから
薬剤師がいないと買えないものだったから
買うことができない時間だったから

4 医薬品には、一般用医薬品と医療用医薬品があること及び販売の制限があること、医薬品は承認制度により有効性や安全性が審査されていることについて理解する。

・医薬品には、一般用医薬品と医療用医薬品があること及び販売の制限があること、医薬品は承認制度により有効性や安全性が審査されていることについて説明を聞き、ワークシートに記入する。

ワークシート【2】【3】

・医薬品には、一般用医薬品と医療用医薬品があることおよび販売の制限があること、医薬品は承認制度により有効性や安全性が審査されていること。

実際の薬局やドラッグストアの販売風景の画像（陳列の様子や販売に関する案内、販売者の名札など）を見せるとよいでしょう。



○ワークシートで一般用医薬品の販売には制限があることを確認する。要指導医薬品についても触れる。

○医療用医薬品にも触れ、医師による処方箋に基づいて販売されており、これも販売の制限であることを確認する。

また、医薬品は承認制度により有効性や安全性が審査されていることについて押さえる。

◆【知識・理解】

医薬品には、一般用医薬品と医療用医薬品があること及び販売の制限があること、医薬品は承認制度により有効性や安全性が審査されていることについて、理解したことを言ったり、書き出したりしている。

(観察・ワークシート)

	<p>5 実際の一般用医薬品の添付文書や説明書から正しく使用するために必要な情報について考える。</p> <p>・実際の一般用医薬品の添付文書や説明書から正しく使用するために必要な情報を読み取ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 添付文書や説明書で正しく使うために必要な情報だと思われるところを、各自で蛍光ペン等を使用し、ラインを引く。 グループ内で、チェックしたところをお互いに確認し、特に安全に使用するために必要な情報だと思ったところを五つ選択する。 <p>ワークシート【4】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに代表者が発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一般用医薬品の添付文書や説明書を人数分（コピー）準備し、配付する。 ○ここで使用する医薬品の添付文書や説明書については、誰にでも起こりうる明らかな副作用（眠くなる、胃が痛くなるなど）があるという観点から、鼻炎薬・解熱鎮痛薬・風邪薬等が望ましい。 ○各グループに話合いのまとめ用のワークシートを配付する。 <p>添付文書や説明書には安全に使用するために必要な情報が書かれているので必ずすべてに目を通すことが大切であることを伝えましょう。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ○副作用について、添付文書や説明書をもとに押さえる。 板書例 1 ◆【思考・判断】 医薬品は、個々の医薬品の特性を理解した上で使用法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であることについて、与えられた資料を使用し、必要な情報を見付けたり、選んだりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。 (観察、発言、ワークシート)
<p>まとめ5分</p>	<p>6 授業のまとめを行い、今後、医薬品を使用するときに重要なことを確認する。感想をワークシートに記入する。</p> <p>・添付文書や説明書は、必ず読むことが大事であること。</p> <p>・分からなければ専門家(医師や薬剤師等)に必ず聞くようにすることが大切であること。 板書例 2</p> <p>・疾病からの回復や悪化の防止には、個々の医薬品の特性を理解した上で、使用法に関する注意を守り、正しく使用することが有効であること。 板書例 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習内容を振り返りながら、ワークシートに記入するよう促す。 ○添付文書や説明書は正しく使用するために必要なことが書かれているので、必ず読むことが大事であること、分からなければ専門家（医師や薬剤師等）に必ず聞くようにすることが大切であることを確認する。 ◆【知識・理解】 疾病からの回復や悪化の防止には、個々の医薬品の特性を理解した上で、使用法に関する注意を守り、正しく使用することが有効であることについて、理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。 (後日テスト) ○本時を学習活動1～4までとし、学習活動5～6を次の時間にするなど、2時間扱いでの展開も考えられる。

(4) 資料等

ワークシート

「医薬品と健康」

【1】以下の二つのことについて考えてみましょう

① 薬局やドラッグストアに行くと、手に取れる場所にある医薬品と、カウンターの奥にあって自分で手に取ることができない医薬品があります。それはなぜなのでしょう？

② 手に取れない場所にある医薬品をすぐに購入することができませんでした。それはなぜだったのでしょうか？

【2】 医薬品の種類と販売の制限

- _____ … 基本的には自分の判断と責任のもとに購入する。
ただし専門家(_____ 等)の意見を聞くことが重要。
市販薬、大衆薬などと呼ばれることもある。
- ・第1類医薬品 … 手に取れる場所に置かない。
_____ が対応する。
- ・第2・3類医薬品 … 手に取れる場所にあり、自分で選んで購入できる。
_____ が対応する。
- ※ 要指導医薬品 … 販売時に薬剤師による対面での情報提供・指導が必要。
医療用から一般用に移行したばかりの医薬品や劇薬。
- _____ … 医師からの _____ をもとに購入する。
患者の症状や状況に合わせて種類や量が決まる。
薬局で薬剤師から購入する。

【3】 医薬品ができるまで

- ①薬になりそうな物質（候補物質）を探す<2~3年>
②細胞や小動物などで実験・研究する<3~5年>
③有効か、安全かを人で試験（治療）する<3~7年>
④国（厚生労働省）に申請し、専門機関が審査し、国が承認する<1~2年>
⑤問題がなければ製造・輸入し、販売することができる
⑥販売後も常に管理・評価する
⇒ 承認制度 = 有効性や安全性が審査されている

【4】 実際の添付文書から必要な情報を読み取ってみましょう

○ 医薬品を安全に正しく使用するために特に必要な情報だと思うところを五つ挙げましょう。

- 1 _____
2 _____
3 _____
4 _____
5 _____

【まとめ】

板書例 1

【医薬品の副作用について】

主作用 …治療の目的に利用される作用
副作用 …適正に使用してもその医薬品で
あらわれる有害な反応

- ⇒予測できるものは添付文書に明記されていることが多い
- ⇒予測できず深刻な健康被害を出すこともある

板書例 2

【医薬品を正しく使用するために】

- ◎添付文書や説明書は必ず読むことが大事
- ◎分からなければ専門家<医師や薬剤師等>に必ず聞くことが大切

板書例 3

【医薬品を正しく使用するために】

疾病からの回復や悪化の防止には
個々の医薬品の特性を理解した上で
使用法に関する注意を守り
正しく使用することが有効

6. 他の時間との関連（特別活動の時間との関連）

科目「保健」で、関連して取り上げることができる内容としては、「現代社会と健康」の「ア 健康の考え方」の「(ウ) 健康に関する意志決定や行動選択」がある。自己の健康づくりのために十分に情報を集め、思考・判断することが必要であることの学習活動の際に、自分と医薬品のかかわりについて取り上げることができる。また、「イ 健康の保持増進と疾病の予防」の「(ウ) 薬物乱用と健康」,「(エ) 感染症とその予防」でも医薬品について関連付けることができる。科目「体育」では「H 体育理論 ウ オリピックムーブメントとドーピング」において「ドーピングが重大な健康被害をもたらすこと」と関連付けて取り上げることが考えられる。

特別活動では、本書 78 ページに掲載している「薬物乱用防止教室」などにおいて薬剤師からコメントを求めたり、健康被害に関する講演会など行ったりすることも有効である。

また、「消費者教育や保護」「薬害」といった内容から公民科や家庭科など、他教科とも連携を図り、より内容を深めることが期待できる。

8 第2学年 (3)社会生活と健康 ウ労働と健康「労働災害と健康」

1. 単元名 労働と健康

2. 単元の目標

- ・労働と健康について、資料の活用や課題解決に向けた意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。(関心・意欲・態度)
- ・労働と健康について、課題や解決方法を見付けたり、学習したことを比較したり分類したりするなどして、それらを説明することができるようにする。(思考・判断)
- ・労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化に起因する傷病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理を行う必要があることについて、理解したことを発言したり、記述したりすることができるようにする。(知識・理解)

3. 単元について

社会生活における健康の保持増進には、個人の力だけではなく、個人を取り巻く社会の制度や活動などが深くかかわっている。すべての人が健康に生きていくためには、社会生活の経済的基盤となる労働と健康にかかわる活動や対策などについて理解できるようにする必要がある。

本単元では、労働災害は作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたこと、その防止には健康管理と安全管理が必要であること、また、働く人の健康の保持増進には、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つこと、積極的に余暇を利用するなどして生活の質の向上を図っていくことが重要であることを学習する。

さらに、本単元の学習に関連して、働くことにかかわるストレスに対する気付きやメンタルヘルスケアなど、近年重要性を増しつつある精神の健康について触れるようにする。

4. 単元計画

	第1時	第2時(本時)	第3時	第4時
	労働災害と健康①	労働災害と健康②	働く人の健康の保持増進①	働く人の健康の保持増進②
主な学習内容・学習活動	○労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が増加してきたこと。	○労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善を含む健康管理と安全管理が必要であること。	○働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進によって成り立つこと。	○働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなど生活の質を向上させることにより、健康の保持増進を図っていくことが重要であること。
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「働くことの意味」、「理想の仕事」について考える。 2. 産業構造、働き方はどのように変化してきたかを、資料をもとに整理する。 3. 産業構造、働き方の変化に伴い、健康面でどのような変化が現れたかを、資料をもとに整理する。 4. 資料から得た内容を伝え、成果を共有する。 5. 働き方と労働災害の変化についてまとめる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前時を振り返る。 2. 安全管理について、危険を予測するための資料、危険を可視化するための資料をもとに、作業形態と作業環境を改善するための方策と、安全を確保し、推進するための責任者の役割について考える。 3. 健康管理について、健康診断の結果を踏まえて必要な事後措置を検討し、労働者の健康保持を考える。 4. 労働災害を防止するための方策についてまとめる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前時を振り返る。 2. 働く人の健康状態を把握するための対策(一般健康診断と特殊健康診断)及び職場における健康増進活動について整理する。 3. メンタルヘルスケアについて、実施したチェックに基づき、適切な措置や助言について考える。 4. ワーク・ライフ・バランスについて整理する。 5. 働く人の健康の保持増進のための対策についてまとめる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前時を振り返る。 2. 余暇の活用とワーク・ライフ・バランスについて考える。 3. 習得した知識をもとにディスカッション(ディベート)を行う。 2名×4チーム×5会場 4. 討議内容、主な論点と判定結果を伝え、成果を共有する。 5. 生活の質の向上と健康の保持増進についてまとめる。

5. 展開例 (2/4時間)

(1) 労働災害と健康②

(2) 本時の目標

・労働災害の防止について、資料等をもとに、課題を見付けたり、解決の方法を整理したりするなどして、それらを説明することができるようにする。 (思考・判断)

・労働災害の防止には、作業形態や作業環境の改善を含む適切な健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを発言したり、記述したりすることができるようにする。

(知識・理解)

(3) 展開 : ねらい : 学習内容 : 発問・指示など

時間	主な学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
導入 7分	<p>1. 働き方と労働災害の変化について整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のグループを編成する (四人組) ・前時の学習について確認する。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">我が国では、「産業構造」と「働き方」にどのような変化がありましたか。これらの変化に伴い、労働にかかわる健康課題はどのように変化しましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで確認した内容を発表し、前時の内容について、理解を共有する。 	<p>○第3次産業就業者、テレワーカーの増加等の変化に伴う健康課題の変化について確認させる。</p>
展開 ①20分	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">労働災害を防止するための方策について、安全管理と健康管理の視点から考えよう。</p> <p>2. 本時の学習のねらいを把握する。</p> <p>3. 安全管理について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険を予測するための資料 (イラスト) を用い、災害リスクの低減策を考える。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">ワークシートを用いて「潜んでいる危険」、「予想される事故・健康障害」、「改善の方法」をグループで検討しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートをもとにブレインストーミングを行い、意見を出し合う。 ・グループで検討した内容を発表し、注意したり改善したりするべき不安全状態や不安全行動について、理解を共有する。 ・職場には、法令により「安全の担当者」を置くことが定められており、職場の安全確保に努めていることを理解する。 	<p>○本時は、労働災害を防止するためには、何が必要なかを考える授業であることを伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>思考を活発にさせるためには、「高さ」「安定性」「手すりの有無」などの「状態」、障害が発生しそうな作業の仕方などの「行動」、他の人の動きや風など、外からの「影響」に着目するように促します。</p> </div> <div style="text-align: right; margin: 10px 0;">  </div> <p>○多くのグループから共通して挙げられた項目 (又は、少数のグループからしか挙げられなかった項目) を板書し、理解を深めさせる。</p> <p>○労働安全衛生法の定めるところにより、「安全の担当者」は事業所の規模、職種によって名称や役割が異なることにも触れる。</p>

- ・危険ステッカーを用い、可視化することによる危険の周知・共有を考える。

危険を可視化し、従業員で共有するためのツールに「危険ステッカー」があります。グループで、インパクトのあるコメントを考えましょう。

- ・グループで作成したコメントを発表し、注意点をみんな（職場）で話し合うことの効果を考える。
- ・職場における労働災害防止の取組には、整理・整頓、危険の予知、危険の可視化、作業方法の学習、安全意識の啓発などがあることを理解する。
- ・職場には、事業所の規模と業種に応じて、安全の確保と推進などを担当する責任者が置かれることを理解する。



グループで、インパクトのある（アピール性の高い）コメント、危険等を端的に表現しているコメントを考えるよう促します。



○職場では、教育・研修による意識の喚起が、責任者のもとで安全管理の一環として行われていることを理解させる。

労働災害の未然防止には、作業形態の過誤（不安全行動）、作業環境の不備（不安全状態）を改善することが必要であること。

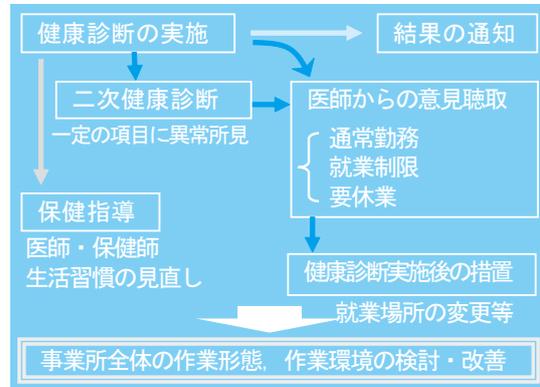
4. 健康管理について考える。

- ・健康管理は、健康診断による労働者の健康状態の把握に止まらず、事後措置や保健指導、作業環境や作業形態の検討・改善を含む幅広い内容であることを理解する。
- ・健康診断の結果、異常の所見があると診断された労働者の健康を保持するため、必要と思われる措置を考える。

健康診断の結果、「異常所見あり」と診断された従業員がいました。あなたは経営者として、勤務による負担を軽減するために、どのような対策を講じますか。

展開②
15分

【健康管理に関する板書例】



（厚生労働省「労働安全衛生法に基づく健康診断実施後の措置について」をもとに作成）

ヒントとして、時間（＝労働時間の短縮、深夜業の回数の減少）、場所（＝就業場所の変更）、内容（＝作業の転換）などの視点から意見を出し合うよう助言します。

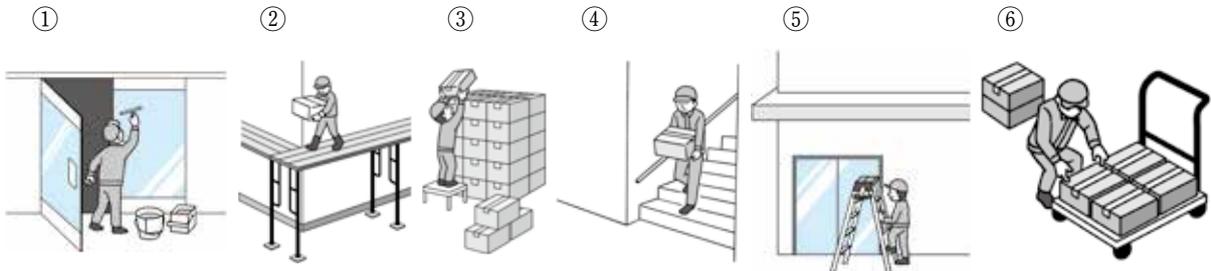


	<ul style="list-style-type: none"> グループで検討した内容を発表し合い、労働者の安全と健康を確保するための方策について考える。 健康診断の事後措置として、①就業場所の変更、②作業の転換、③労働時間の短縮、④深夜業の回数の減少、等の措置を講ずる必要があることを理解する。 	<p>◆思考・判断 労働災害の防止について、資料等をもとに、課題を見付けたり解決の方法を整理したりするなどして、それらを説明している。(ワークシート)</p>  <p>(前掲資料から転載)</p>
<p>労働者の健康の保持増進には、健康診断の結果を踏まえた適切な事後措置や保健指導など、保健管理が重要であること。</p>		
<p>まとめ8分</p>	<p>5. 労働災害を防止するための方策についてまとめる。</p> <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px;"> <p>労働災害を防止するためにはどのようなことが必要ですか。本時の学習を振り返り、健康管理、安全管理の両面からまとめましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> まとめた内容を発表し、どうしたら労働災害を防止することができるか、そのための制度や社会的な対策について理解を共有する。 教師のまとめを聞き、本時の学習内容を整理する。 次時の予告を聞き、学習の見通しをもつ。 	<p>○グループワークや教師の説明を踏まえ、各々でワークシートに記入させる。</p> <p>◆知識・理解 労働災害の防止には、作業形態や作業環境の改善を含む適切な健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。(観察、ワークシート)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>労働災害は防止できるものであること、そのために、労働安全衛生法などの法令に基づき、国の制度、事業者の取組や安全衛生委員会等の活動など、社会的な対策が行われていることについて、知識として定着させることが大切です。</p> </div> 

保健ワークシート 労働災害と健康②

1 危険を予測してみよう！

(2/4 時間目に使用)



(引用：中央労働災害防止協会)

イラスト番号 ()

イラスト番号 ()

潜んでいる危険		
予測される事故・健康障害		
改善・未然防止のための方策		

2 「危険ステッカー」に、インパクトのある「コメント」を考えよう！

①	倉庫に電気をつけずに入ったとき、放置された台車に足が引っかかり、転倒した。 (62歳, 休業1か月) キッチンを歩いていたとき、マットが滑り、転倒した。 (43歳, 休業2か月)	① 転倒危険！ [コメント]	② 腰痛危険！ [コメント]
②	棚から重い荷物を下ろすとき、背伸びして無理な体勢で受け止めて、腰をひねった。 (34歳, 休業3か月) フライヤーの油交換作業のため、油の入った一斗缶を持ち上げたところ、腰を痛めた。 (54歳, 休業2か月)	③ 墜落・転落危険！ [コメント]	④ やけど危険！ [コメント]
③	脚立に乗り電球を交換中、バランスを崩し、脚立から落下した。 (32歳, 休業1か月) テーブルに乗り、飾り付けをしていたとき、バランスを崩し、転落した。 (66歳, 休業2か月)		
④	鍋の湯を捨てようとしたとき、手が滑って鍋を落としてしまい、長靴の中に湯が入ってやけどした。 (19歳, 休業3か月)		

(引用：厚生労働省リーフレット「第3次産業で働く皆様へ 安全で安心な職場をつくるために」、同「小売店の「見える化ツール」ステッカー」、同「飲食店における危険の「見える化」ツール」)

3 健康診断の結果、「異常所見あり」と診断された従業員がいました。あなたは経営者として、勤務による負担を軽減するために、どのような対策を講じますか。(ヒント：「時間」「場所」「内容」の視点から)

4 労働災害を防止するためにはどのようなことが必要ですか。本時の学習を振り返り、健康管理、安全管理の両面からまとめましょう。

6. 特別活動等との関連

(1) 学校教育活動全体を通じた望ましい勤労観・職業観の確立

学習指導要領には、教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項において、「学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行い、キャリア教育を推進すること」が示され、特別活動においても望ましい勤労観・職業観の確立が求められている。高校生期は、自己の個性や学習の成果を生かす進路を自らの意志と責任で選択決定していくという、人生の大きな節目に当たる時期である。人は人生の半分以上を職業人として過ごすため、どのような職業生活を送るかは、いかに生きるかということに深くかかわってくる。一方で、勤労・職業に対する理解の不足や安易な考え方など、高校生を含む若者の勤労観・職業観の未成熟が指摘されており、望ましい勤労観・職業観を確立することは、高等学校教育において重要な課題となっている。

(2) 特別活動における「労働」に関連する学習

特別活動は、生徒の自主的な集団活動、実践的な活動を特質としており、ディスカッションや自己表現・発表、共同の取組、活動の企画・立案や調査・分析など、各教科・科目の学習を通して養われる能力を活動の基礎として展開される。また、特別活動における自発的な実践活動は、各教科・科目で学習した内容を発展させたり、一層の深化をもたらしたりする。このように、各教科・科目と特別活動は共に支え合い、相互に補い合う関係にある。

特別活動においては、本単元「労働と健康」について特に例示されていないが、労働に関しては、ホームルーム活動の内容(3)「学業と進路」オ「望ましい勤労観・職業観の確立」において、各教科・科目等との有機的な関連を図った指導の充実が求められている。具体的な学習活動としては、「職業と仕事」、「働くことの意義と目的」、「職業生活」、「働くことと生きがい」などについて題材を設定し、調査やインタビューをもとに話し合ったり、発表やディベートを行ったりするなどの活動の展開が考えられる。

その際、働くことの楽しさや厳しさを知り、勤労・職業についての関心を高めるとともに、勤労・職業の目的や意義を、人は生計を維持するためばかりではなく、職業を通じて社会の一員としての役割を果たし、自己の能力・適性を発揮しているということが理解できるよう指導・援助することが大切である。

(3) キャリア教育とのかかわり

「現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにする」ことを究極の目的とする保健体育科においては、キャリア教育と密接に関連する多くの指導内容がある。キャリア教育で育成すべき力である「基礎的・汎用的能力」には、「働くこと」の意義を理解し、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、主体的にキャリアを形成していく力であるキャリアプランニング能力がある。

この能力は社会人・職業人として生活していくために生涯にわたって必要とされ、本単元「労働と健康」の指導内容と特に関連の深い能力として例示されている。

	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
科目保健	・思春期における自分の行動への責任感や異性を尊重する態度、及び性に関する情報等への適切な対処などの必要性について考える。(後段省略)	・健康を保持増進するためには、一人一人が健康に対して深い認識をもち、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解する。	・生涯の各段階における健康課題を見付け、自らこれに適切に対応したり、保健・医療制度等を活用したりするなどの解決方法を考える。	・社会生活における健康の保持増進には、環境や食品、労働が深くかかわっていること、それらと健康にかかわる活動や対策について理解を深める。

(引用：文部科学省『高等学校キャリア教育の手引』(平成23年11月))

第2節 特別活動（生徒会活動・学校行事等）

1. 生徒会活動

1. 活動名

「生徒保健委員会活動で取り組む心肺蘇生法の普及啓発活動」

2. 学習指導要領及び解説の位置付け

生徒会活動の目標

生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

生徒会活動のねらいと内容

生徒会活動は、全生徒を会員として組織し、学校における自分たちの生活の充実・発展や学校生活の改善・向上を目指すために、生徒の立場から自発的、自治的に行われる活動である。

3. 目指す生徒の姿（生徒会活動）

集団生活や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団生活や生活についての知識・理解
学校生活の充実・発展や学校生活の改善・向上にかかわる諸問題に関心をもち、他の生徒と協力して、自主的、自治的に生徒会の活動に取り組もうとしている。	生徒会の一員としての役割や責任を果たし、学校生活全体の充実・向上にかかわる問題を解決する方法などについて考え、判断し、共同して実践している。	生徒会活動への意義や組織、諸活動への参画の仕方などについて理解している。

4. 活動について（考え方、特徴）

学習指導要領解説特別活動編においては、生徒会活動の内容として、「(4) 学校行事への協力」が挙げられており、本事例の生徒保健委員会活動の取組を、学校祭の計画や実施に生徒保健委員会として積極的に協力し、参加する活動として位置付けた。

今回の取組は、日常的な健康や安全の向上を目標として活動している生徒保健委員が、学校行事への協力という視点で、主として資料作成及び提案を行う。具体的には、保健の学習で学ぶ「心肺蘇生法」が必要とされる場面に居合わせたときに、一人一人がためらいなく率先して行動できるようになるために必要な事柄について取り組むが、学校祭に参加する全生徒に対しても働きかけを行い、これによって、自主的・実践的な態度を身に付けることができるようになることを目指す。

5. 指導計画

	時期	活動内容
事前指導	4月保健委員会 5月	・今年度の活動テーマ協議と決定 ・活動計画作成、学校祭への協力、実行委員会との連絡・調整、自主的、積極的な協力に向けた取組
	学校祭実行委員会 6月 7月 9月	・心肺蘇生法の理解を深めるための講習会参加（消防署へ依頼） ・役割分担決定（企画・広報係、発表係・調査係） ・生徒の実態調査と集計「高校生の心肺蘇生法に関する調査」 ・展示項目決定・作成、校内発表用資料作成
本時学校祭	9月26日 学校祭校内発表会 9月27日 学校祭一般公開	・心肺蘇生法の普及啓発資料に基づき発表 ・心肺蘇生法の体験補助 ・心肺蘇生法の普及啓発資料に基づき発表 ・心肺蘇生法の体験補助

6. 具体的な展開について

(1) 事前の活動

●…生徒の意見 *…決定事項 ○…指導上の留意点

時期	主な活動	指導上の留意点
4月 5月	<p>1. 全生徒の様子から課題について考える。 ・活動テーマを検討し決定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●何か人のためになる活動をしたいが、何をしたら良いのか分からない ●心肺蘇生法<small>そせい</small>に関心はあるが、いざというときに自分が行動できるか自信がない ●本校のAED設置場所を知らない生徒がいる ●授業や部活動でのけがが多い <p>2. どの課題について活動するか話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ●授業で学習した応急手当をもっと深く理解し、さらにけがの予防につなげられるよう、学校祭で紹介したい ●心肺蘇生法やAEDの知識を一人でも多くの人がもち、日ごろからはもちろん自然災害等で適切な行動がとれるように全校生徒に伝えたい <p>*活動テーマを「つなげよう* 助けよう* 命のリレーを少しの勇気で!!」とし、学校祭で心肺蘇生法の理解と普及のための発表資料作成・展示に向けて活動する</p> <p>*学校祭実行委員会へ企画を提出、連絡・調整する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合い活動を3年生が中心になり行う。その際、活動の見通しがもてるような進め方ができるように、事前に指導する ○各人が活動に関する意見を出し合い、本校の課題について話し合いを進められたことを称賛し、次の活動への意欲付けをする ○それぞれの意見をもとに、活動が始められることを称賛する <p>○よりよい学校生活づくりに向けて活動内容を提案し協力を呼びかけるようにする</p>
6月	<p>3. 心肺蘇生法<small>そせい</small>の理解を深めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急法講習会に参加（校内1時間）する ・参加後の感想や疑問点などを話し合い、全生徒へ伝えるためのポイントについて話し合う  <ul style="list-style-type: none"> ●全生徒の心肺蘇生法<small>そせい</small>に関する理解度を調査し、発表することで、全校生徒の理解が深まるのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ○消防士<small>そうぼうし</small>からの講習を受講することで、心肺蘇生法<small>そせい</small>（含むAED）の知識、技術の習得と、「倒れている人を発見したら躊躇なく声をかける」勇気の大切さに気付かせる
7月 8月	<p>4. どんな活動ができるか意見を出そう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の流れを考える ・学年縦割りで編成、発表に向けた活動計画の話し合い ・役割と分担を決定する <p>調査係…</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「心肺蘇生法<small>そせい</small>に関する調査」結果を考察し課題の整理をしよう ●救命につながった例などを調べて掲示発表しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ○学年を縦割りにし、活動することにより、異年齢での意見の相違や価値観の相違を調整し、総合的に考え、判断することにより、お互いの良さを認め合える人間関係を形成し、協同して実践できるよう指導する ○3年生がリーダーとなり、個人の得意分野を生かしながら協力して活動できるようグループをまとめ活動ができるよう励ます

- 学校医・消防署で資料作成に向けての指導助言を依頼し、正しい理解につなげよう

発表係…学校祭校内発表（10分）

- 保健委員の発表を聞くことで、心肺蘇生法の第一歩は「**勇気をもって声をかける**」ことだと認識してもらいたい

- 全生徒へハート型の感想カードを配付して記入してもらい、一般公開時に展示したい

- 展示することで、一人一人は小さくても全生徒が集まれば大きな思いになることが分かるようにしたい

企画・広報係…AEDへの関心を啓発する展示物の内容を工夫して理解を深めてもらえるよう検討しよう

- 校内 AED 設置場所及び設置場所誘導案内を掲示しよう

- 全校生徒に心肺蘇生法（AED）の設置場所調査を呼びかけよう

- クイズは見やすい位置に設置して、参加者全員に参加賞を渡したい



- 時間がない人でも興味をもってもらえるように、リーフレットを作成し配付しよう

- マンガ部にイラストを依頼して、本校版心肺蘇生法カードを作成して全校生徒に配付しよう（資料1）

- つながる樹は、校内発表した内容について、全校生徒に感想を記入してもらい、それをカード樹の葉に見たてて作成する。学校祭一般公開時に参加した方にも記入してもらい、カード樹を完成させよう

- 普通救命講習参加案内（これからの講習会予定の案内）を配付して興味がある人が参加しやすいようにしてはどうか

- *地域（通学路）の AED 設置場所マップを作成する

- どんな提案をしたいのか、生徒の意見を十分に引き出せるよう見守る

- 必要な資料を準備する

- 学校医、消防署の日程調整をする

- 発表用パワーポイントは保健委員会での取組、科目保健で学んだことや事前講習会の内容を



- を参考にし、行動化への課題が共有できるような内容になるようアドバイスする

- 心肺蘇生法が必要とされる場面での課題を明確化し、解決のための知識の普及や実践について提案できるよう見守る

- 全生徒が参加していると実感できるような感想カードの展示になっているか見守る



(2) 本時の活動

(A) 校内発表

主な活動	指導上の留意点
1. 学校祭で発表する *内容を7項目とする ①今回の活動の経過 ②調査結果報告(抜粋) ③AED設置場所 ④心肺蘇生法の手順 (ポイントアドバイス付き) ⑤AEDについて(音声案内) ⑥学校医からのメッセージ ⑦保健委員会からの提案 2. 校内発表後「救急時の行動」今の気持ちを 全校生徒が感想カードに記入する	 <ul style="list-style-type: none"> ○自主的・実践的な態度の育成につながるような内容になっているか意識させるよう助言をする ○保健委員会から全生徒に働きかける提案は明確であるか助言する ○AEDマップ, 心肺蘇生法講習会での実技を通じた学習と話し合いの結果が盛り込まれているか助言する ○資料は実技への理解が深まる内容になっているよう助言する

(B) 一般公開で展示発表

主な活動	指導上の留意点
1. 心肺蘇生法に関する展示 ①アンケート結果 ②事前学習会参加者感想まとめ ③心肺蘇生と救命に関する新聞記事まとめ ④AED設置場所マップ ⑤心肺蘇生法手順(ワンポイントアドバイス) ⑥普通救命講習Ⅰ・Ⅲの案内配付 2. 心肺蘇生法 体験コーナー ・来場者へ「命のリレー」心肺蘇生法(AED 使用法)と一緒に体験し補助する  <ul style="list-style-type: none"> ●心肺蘇生法やAEDが使えなくても、「大丈夫ですか?」と躊躇せずに声をかける勇気が大切だと理解してもらえよう説明したい ●119番通報や、AEDを取りに行くことも大切な行動であることを説明して、一人でも多くの協力者が必要であることを理解してもらいたい 	<ul style="list-style-type: none"> ○受付・実演構成は縦割りとし、六人で1時間ずつ責任をもって分担することができるよう助言する ○体験を躊躇している人に参加を促す言葉をかけられるよう見守る ○参加者に感想カードの記入を促せるよう助言する ○科目「保健」で学んだことを参考に、普及啓発や地域の人へ伝えていく活動ができるよう見守る ○「勇気」出す事が重要であることが理解できるような言葉がけができるよう見守る

(3) 事後の活動

主な活動	指導上の留意点
1. 自分の役割について振り返る 今回の活動の振り返りと取組に関する自己評価, 相互評価を行う 2. 係毎に分かれ, 活動について振り返る 3. 活動を継続する方法を考えよう <ul style="list-style-type: none"> ●活動を継続する方法として, 地域の中学校で発表する ●積極的に地域での講習会に参加する ●定期的に校内で講習会を開催する 	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りカード(資料2)に記入し, 自己評価, 相互評価したことを次の活動に生かせるように助言する ○振り返りカードをもとに, 各係のリーダーが中心になり係活動と全体の活動について話し合い, お互いに称賛するよう助言する ○保健だよりへ活動のことを紹介し感想を掲載することで, 保護者にも読んでもらえるよう配慮する

<p>●学校祭での展示物を廊下に掲示する</p> <p>4. 保護者や地域へ発信する方法を考えよう</p> <p>●来校者のメッセージカード（感想）をまとめ、保健だよりに掲載する</p> <p>●学校のホームページに掲載する</p>	<p>○より多くの人に関心をもってもらえるようにする</p>
--	--------------------------------

7. 活動のポイント

- ①生徒保健委員として一人一人が役割を遂行し協力しながら、心肺蘇生法（含む AED）の手順・方法などについて、これまでの学習を基盤に、普及啓発のための発展的な内容について調べ、校内発表及び展示・体験補助などの発表を行うことができる。
- ②生徒保健委員会の活動は、学校祭への協力で行われるため、参加する全生徒が、心肺蘇生法が必要とされる場面に居合わせたときに、自主的、実践的に行動することの大切さを理解し、行動できるように必要なことを考えることができる。

8. より効果的な実践のために

生徒会活動の保健委員会活動は、異年齢集団の活動が主となるため、3年生のリーダーシップ力に期待するところが大きい。今回の「心肺蘇生法」というテーマは、誰もが「少し知っているが自信はない」という状態であり、学校行事への協力という視点での取組が、一人一人にとって自分の役割を自覚し、活動に積極的に取り組めた。その結果、全校生徒、来校者からは、「分かりやすい説明だった」、「AEDの場所が分かった」、「私にも救える命があることが分かった」などがあった。また、心肺蘇生法の体験者からは、「胸骨圧迫は力があるので、複数の人の協力が必要だと思った」といった感想が寄せられ、実践的態度につながる取組であったことが考えられた。今回の取組に際し、生徒保健委員自身がこれまでに得た知識・技能を伝え、その反応を実感することで、自分自身が心肺蘇生法を実施することに対する自信にもつながったと思われる。

事後活動では、更に地域へ広げるための活動の在り方についての話し合いになった。今後は、更に活動の質を高めることにより、全校生徒への働きかけについて、効果的な取組を活動に仕組んでいきたい。

9. 科目「保健」との関連

科目「保健」では「(1) 現代社会と健康 オ応急手当」において、心肺蘇生等の応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることについて理解できるよう学習している。このことを広げて、発展させて学校行事への協力を生徒会活動として取り組むことは、みんなで話し合っ協力して解決したり、集団や社会の一員としての自覚に基づき、学校や地域社会の生活の充実・向上に積極的にかかわったりしていく自主的、実践的な態度の育成が期待できる。

特別活動の生徒会活動（保健委員会活動）では、生徒会活動への協力や健康安全・体育的行事との関連で、応急手当について関連付けて取り上げることができる。本事例のように、保健委員会委員生徒は、事前準備として資料作成や知識・技能の習得をしたり、発表の準備、全校生徒や学校祭参加者への働きかけを計画・実行したりすることができる。全校生徒や学校祭参加者は、その発表を聞き、感想を述べたり、実際に体験してみたりすることができる。これらの活動は、社会的活動への参画や協力、地域の人々との幅広い交流など、学校外における活動を通して、他者を尊重し、共によりよい集団生活や社会生活を築こうとする開かれた人間関係の育成にもつながる。

10. 資料

1 本校版心肺蘇生法カード

傷病者発見！！

①安全の確認



反応あり

↓ 気道確保
回復体位
直ちに
救急隊を呼ぶ

GPS機能 ON

②呼吸の確認
(10秒以内で
胸の上下を見る)

反応なし



強く！
速く！
絶え間なく！
5 cm

力点

100回以上/分

③胸骨圧迫

AED・救急車の手配をし
AEDの到着・救急隊の到着まで、他の人と交代しながら胸骨圧迫を継続する

※人工呼吸を正確に行う自信がない場合は
胸骨圧迫のみを中断せずに行う

救急隊の到着まで繰り返す

離れて！

④AEDの到着

AEDの指示に従って作動
必要な場合 ⇨ 除細動の指示
必要ない場合 ⇨ 胸骨圧迫から心肺蘇生を再開

2 振り返りカード

拓陽祭での活動について

1・2・3年 組

1 自分の役割について振り返りましょう

項目	はい	いいえ	どちらともいえない
①保健委員として今回のテーマを理解していましたか？			
②係の役割を理解して活動できましたか？			

2 グループに分かれ、活動を振り返りましょう

(調査係・発表係・企画、広報係)

項目	はい	いいえ	どちらともいえない
①普及・啓発のための話合いはできましたか？ (課題を整理することはできたか)			
②すべての生徒へ広げるため活動ができましたか？			

3 活動を継続する方法を考えましょう

- ①今後の活動について (何ができるか・何をしたいか)
- ②校内での定着のために
- ③地域への普及のために
- ④自分自身

4 保護者、地域への紹介方法

2. 学校行事「薬物乱用防止教室」

1. 活動名「薬物乱用防止教室」(Don't touch DRUG !)

2. 学習指導要領及び解説の位置付け

学校行事の目標

学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

健康安全・体育的行事のねらいと内容

心身の健全な発達や健康の保持増進などについての理解を深め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するような活動を行うこと。

3. 目指す生徒の姿（健康安全・体育的行事）

集団生活や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団生活や生活についての 知識・理解
心身の健全な発達や健康の保持増進、運動などに関心を持ち、自主的、自律的に健康安全・体育的行事に取り組もうとしている。	学校や学年の一員としての自覚を持ち、安全な行動、規律ある集団行動の仕方などについて考え、判断し、協同して実践している。	健康安全・体育的行事の意義や、心身の健康の保持増進、安全な生活、体力向上の方法などについて理解している。

4. 活動について（考え方、特徴）

学習指導要領解説特別活動編においては、健康安全・体育的行事の内容として、健康診断、疾病予防、交通安全を含む安全指導、薬物乱用防止指導、非常災害に備えての避難訓練や防災訓練などが示され、それぞれのねらいを明らかにし、教育的な価値を十分に生かすように配慮することが大切であるとされている。実施に当たっては学習指導要領第1章総則の第1款の3（※）の趣旨が十分に生かされるように、特に配慮することが必要であるとされている。実施上の留意点として、「喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為の有害性や違法性、防犯や情報への適切な対処や行動について理解させ、正しく判断し行動できる態度を身に付けること」が併せて示されている。

薬物乱用防止に関する指導は、保健体育科だけでなく、特別活動や総合的な学習の時間など、健康に関する指導や生徒指導として学校の教育活動全体を通じて行うことが大切である。また、薬物乱用は心身の健康のみならず人格の形成にも重大な影響を与え、社会に及ぼす影響が大きいことから、誤った情報に惑わされることなく、自らの判断で適切な健康管理ができるように指導することが重要である。

今回の活動を通して、保健体育科科目「保健」及び特別活動の学校行事「薬物乱用防止教室」において、薬物乱用防止に関する知識の習得とともに、グループディスカッション等を通して、生徒が状況を正しく判断し適切に行動できる態度を身に付けることができるようにすることを目指す。

※ 学習指導要領 第1章 総則 第1款 教育課程編成の一般方針

3 学校における体育・健康に関する指導は、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科はもとより、家庭科、特別活動などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めることとする。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮しなければならない。

5. 指導計画

事前指導 科目「保健」	主な活動	グループディスカッション
	ねらい	○「なぜ薬物がいけないのか？」をテーマとしたグループディスカッションを通して、薬物乱用防止のために様々な対策が必要であることを自ら考え、理解を深める。
本時 特別活動	主な活動	学校行事「薬物乱用防止教室」 ・意見発表、「設定事例における対応」の発表
	ねらい	○クラス代表者によるテーマ別の意見発表を行い、それぞれの意見を聞くことにより、薬物乱用が及ぼす影響について新たに気付かせる。 ○クラス代表者による「設定事例における対応」の発表、ゲストティーチャーからの感想やアドバイス、質疑応答を実施することにより、薬物乱用が身近な問題であることを感じつつ、適切に判断して対処できることにつなげる。
事後指導 特別活動	主な活動	ホームルーム活動
	ねらい	○「振り返りシート」に本時の感想と自己決定した内容等を記入する。その結果を集約し、生徒全員で共有することにより、集団の一員としての自覚を促す。

6. 具体的な展開について

(1) 事前指導 科目「保健」 保健学習（薬物乱用と健康）

(1) 現代社会と健康

イ 健康の保持増進と疾病の予防

(ウ) 薬物乱用と健康

内 容	指導上の留意点
<p>○グループディスカッション</p> <p>【テーマ】「なぜ薬物はいけないの？」</p> <p>～「健康面」「法律面」「家庭・学校・友人面」から考えよう～</p> <p>①「健康面」, 「法律面」から</p> <p>②「法律面」, 「家庭・学校・友人面」から</p> <p>③「家庭・学校・友人面」, 「健康面」から</p> <p>※ 学年を①～③のテーマごとにクラス単位で三つ分け、各クラスでグループディスカッションを行う。</p> <p>・クラスを五人ずつの班に分け、各班において決められたテーマについて、各自の考えを付箋に記入する。</p> <p>・模造紙に類似の意見を付箋ごとに貼り分け、掲示する。</p> <p>・各班で出た意見を2分程度で発表する。</p> <p>・各班から出た意見をまとめ、クラスの意見とする。また、特別活動「薬物乱用防止教室」において発表するクラス代表者を決める。</p> <p>※ 発表するクラスは①～③の各グループから一つとする。</p>	<p>・グループディスカッションを通じた「気付き」の中から「薬物の怖さ」を共有させる。</p>  <p>・薬物乱用防止の為に、正しい知識の普及などの個人への働きかけと法的な規制など社会環境への対策が必要であることを理解させる。</p> 
<p>○薬物を乱用してしまうと友達がみんな離れていってしまい、親とか周りの人たちに迷惑をかけてしまう。</p> <p>○薬物乱用は絶対にしてはいけません！</p>	

(2) 本時 特別活動(学校行事「薬物乱用防止教室」)の展開例

学習活動	指導上の留意点
<p>体育館に集合</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会の言葉 2. ゲストティーチャーの紹介(学校薬剤師・地元の警察官) 3. クラス代表による意見発表 <ul style="list-style-type: none"> ○代表者が、事前指導の保健授業で実施したグループディスカッションでまとめたクラスの意見を発表する。(3名) <ol style="list-style-type: none"> ①「健康面」「法律面」から ②「法律面」「家庭・学校・友人面」から ③「家庭・学校・友人面」「健康面」から <p>○薬物乱用は自分自身だけでなく、周りのすべての人を巻き込んでしまいます!</p> <p>○発表を終えたら、ゲストティーチャーのコメントを聞く。</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 「設定事例における対応」の発表 <ul style="list-style-type: none"> ○クラス代表者3名に対して次の三つの設定した事例について質問を行い、自分が考える適切な行動を発表する。 <ol style="list-style-type: none"> ①「もし、卒業旅行で友達と行った外国の空港で、見知らぬ外国人から荷物を日本の空港まで持って行ってほしいと頼まれたら、あなたはどのような対応をしますか?」 ②「もし、学校の近くに危険ドラッグを売っている店があることを知ったら、あなたはどのような対応をしますか?」 ③「もし、学校の帰り道でたまたま拾ったものが危険ドラッグだと分かったら、あなたはどのような対応をしますか?」 <p>○(①について) 本当に困っているようであれば、一緒に近くの警備員に相談します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全生徒に「評価シート」(資料①)を配付しておき、各発表に、評価とその理由を記入する(記入は、発表の入替え中に行う)。 ○ゲストティーチャーの警察官から各発表についてアドバイスを聞く。 <p>○数日一緒に行動して、親しくなってから、高額な謝礼を出すといった条件を出して依頼する例がある。</p> <p>○乱用薬物に接近したと思ったときは、すぐに、近くの警察に連絡してください。</p> <p>※ クラス代表者以外にも希望する生徒は発表する。</p>	<p>(他の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校医 ・学校歯科医 ・麻薬取締官 ・保健センターの担当 など <p>* 簡潔に述べさせるとともに多面的な発表となるよう指導する。</p>  <p>* 身近な事例をテーマに取り上げ、自分の問題として考えさせる。</p> <p>* 教員が発問の際にリアリティーを出すよう工夫し、生徒の答えを引き出す。</p>  <p>* 参加者全員が自分の考えをまとめ、当事者意識をもてるようにする。</p> 

5. ゲストティーチャーから生徒へのメッセージ

○それぞれの立場から薬物乱用防止に関する思いを聞く。

【警察官】

- ・実際の事例の紹介を交えながら、乱用薬物が身近に迫ってきていることや薬物乱用が人生そのものを無駄にしてしまうことを伝えてもらう。

(例) 本市全体の薬物事案の件数は他市に比べて多く、危険ドラッグの販売店舗もある。等

【学校薬剤師】

- ・薬物の成分の違い等を説明してもらいながら、身の回りには薬物乱用の危険性が潜んでいることと、それとは別に「医薬品」は健康な生活を過ごすためであることを話してもらう。

(例) 危険ドラッグについては、成分の分からないものが出回っており、1回の使用であっても死亡することがある。等

※学校医など他のゲストティーチャーが参加する場合も、それぞれの立場から薬物乱用がもたらす心身への影響とともに、健康で生きることの大切さを伝えてもらう。

6. 質疑応答

○生徒からの質問を受け、ゲストティーチャーの回答を聞く。

(例) 危険ドラッグはどのような経路で日本に入り、流通するのでしょうか。

7. 校長講話

○「夢多き未来」に向かって、生徒一人一人が身に付けてほしい「力」について聞く。

☆一人一人が、選択すべき分岐点で間違った判断、誤った選択を取らないための「生きる力」

☆一人一人は、周囲の人たちに支えられているとともに周囲の人を支えていることを自覚し、自分を大切に思う気持ち（自尊感情）と「自分を守る力」

☆その一つとして今日までの取組から「危険ドラッグを寄せつけない知識と知恵と力」

「Don't touch DRUG !」

*我が国における薬物乱用の現状を踏まえ、乱用薬物が身近にあるという認識をもつことを中心に講話していただく。

*生徒の発表などの感想とともに、実例等を紹介しながら薬物乱用防止に関する講話をいただく。



*校長として「育てたい生徒象」を伝え、今後の高校生活を充実させる。



(3) 事後指導 特別活動 (ホームルーム活動)

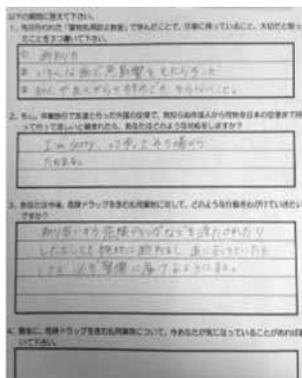
○ 今回の活動の振り返り

- ・「薬物乱用防止教室」を終えた生徒にまとめさせるとともに、自己決定に導く。

1 「振り返りシート」(資料②) を記入する。

○「薬物乱用防止教室」で記入した「評価シート」を参考に、下記の内容について書く。

- ・印象に残っていること、大切だと思ったこと
- ・全員に「薬物乱用防止教室」のときの「設定事例」①～③のいずれかに対する自分の答え
- ・危険ドラッグを含む乱用薬物に対して、今後どのような行動を心掛けていきたいか自己決定したこと
- ・危険ドラッグを含む乱用薬物について自分が気になること



*振り返りシートは、質問①～③ごとに作成し、生徒に対して任意に配付する。

「振り返りシート」を集約し、生徒の質問に対してゲストティーチャーから回答をいただき、結果と併せて校内掲示や学年通信の発行などにより、生徒全員で共有するとともに、保護者へも情報発信する。

資料①

「薬物乱用防止教室」
「設定事例における対応」評価シート

1年()組()番 名前()

【各事例をよく観察し、その対応を評価しよう！】

「よかった」「よくなかった」のどちらかに○をつけよう。そして、その判定した理由を書きましょう。

ケース①
「もし、卒業旅行で友達と行った外国の空港で、見知らぬ外国人から薬物を日本の空港まで持って行って欲しいと頼まれたら、あなたはどうな対応をしますか？」

よかった	(有記理由)
よくなかった	

ケース②
「もし、あなたの学校の近くに危険ドラッグを売っている店があることを知ったら、あなたはどうな対応をしますか？」

よかった	(有記理由)
よくなかった	

ケース③
「もし、あなたの学校の構内書でまたまた持ったものが危険ドラッグだとわかったら、あなたはどうな対応をしますか？」

よかった	(有記理由)
よくなかった	

資料②

「薬物乱用防止教室」振り返りシート

1年()組()番 名前()

以下の質問に答えて下さい。

1. 先日行われた「薬物乱用防止教室」で学んだことで、印象に残っていること、大切だと思ったことを3つ書いて下さい。

①
②
③

2. もし、卒業旅行で友達と行った外国の空港で、見知らぬ外国人から薬物を日本の空港まで持って行って欲しいと頼まれたら、あなたはどうな対応をしますか？

3. あなたは学校、危険ドラッグを含む乱用薬物に対して、どのような行動を心がけていきたいですか？

4. 最後に、危険ドラッグを含む乱用薬物について、今あなたが気になっていることがあれば書いて下さい。

--

7. 活動のポイント

(1) 学校行事として学年全体の理解を深めるための工夫について

科目「保健」において薬物乱用と健康について学ぶとともに、グループディスカッションを通して生徒一人一人が自らの考えをもち、学校生活や社会生活をよりよいものに築いていくための自主的、実践的な態度を育てる。

- ・付箋を活用し、生徒一人一人が考えを表明する場面を作り、みんなで意見の分類を行うことによ

り、ディスカッションにおいて発言が苦手な生徒でも意見を出しやすくする。

- ・クラスごとにテーマを絞ることで、限られた時間の中でより深く考えさせ、クラス全体の意見をまとめやすくする。
- ・「薬物乱用防止教室」において、生徒の代表が設定された事例において、どのような行動を選択するかを全生徒の前で発表させ、身近な問題としてとらえさせる。
- ・事例の再現場面などにおいて、教員が依頼者の外国人にふんして参加するなど、行き過ぎない程度の臨場感を作る。
- ・ゲストティーチャーの感想やアドバイスにおいて、可能な範囲で地域の情報を提供してもらう。

(2) 1年生を対象とした取組の効果について

今回は、高校生活を始めたばかりの1年生を対象とした取組例を示した。危険ドラッグを含む乱用薬物が身近にあるという認識をもち、絶対に触れてはいけないことを理解させることが大切である。

また、自分の健康に関心をもち、適切な行動選択を行うことができるよう1年生の段階から指導することで、集団の一員としての自覚をもち、今後学校の中心、社会のリーダー的存在となっていくことが期待できる。

8. より効果的な実践のために

- (1) 薬物乱用の問題を含む青少年の危険行動の多くが、生徒たちの身近なところで起こっていることに気付かせるために、多様な指導方法（ディスカッション、ブレインストーミング、ケーススタディー、ロールプレイング等）を積極的に用い、自ら考えるきっかけを与えることが大切である。
- (2) 事後指導の「振り返りシート」とともに、「設定事例における対応」の発表など、その都度「ワークシート」を活用することで、生徒に当事者意識をもち、より深く考えさせることが期待できる。
- (3) 1年次で実施し、取組内容を学校新聞等で校内に発信することにより、2・3年次への継続した指導につながり、生徒一人一人の薬物乱用を防止する力の育成することができる。

また、PTA 新聞や学校 HP で取組を紹介することにより、併せて保護者への啓発も図ることができる。

- (4) 地域の人々と交流を積極的に図ることで、地域との絆を一層強いものにしていくことが必要である。保護者や地域の大人に講師として協力を求めたり、逆に生徒が地域の小・中学校の児童生徒に教えに行ったりすることなどにより、地域との連携を深めることができる。

9. 科目保健との関連

科目「保健」では、薬物乱用については「(1) 現代社会と健康 イ 健康の保持増進と疾病の予防」において、「喫煙、飲酒・薬物乱用と健康」の「(イ) 喫煙、飲酒と健康」と「(ウ) 薬物乱用と健康」において学習する。

また、「(1) 現代社会と健康」の「ア 精神の健康」及び「(2) 生涯を通じる健康」の「ア 生涯の各段階における健康」等の内容においても関連付けて学習することができる。

一方、健康安全・体育的行事の実施上の留意点として、「薬物乱用などの行為の有害性や違法性、防犯や情報への適切な対処や行動について理解させ、正しく判断し行動できる態度を身に付けること」とされている。このことを踏まえ、科目「保健」において習得した知識を活用し、正しく判断し行動できる態度の育成を「薬物乱用防止教室」等の学校行事において図ることができるよう指導計画を作成することが大切である。